

金光学園

# やっなみ

2018.12



252号



# 体育会

# ほつまつ



## 茶道部

現在、中・高合わせて16人の部員で活動している。



部員は、人をたいせつに「一服のお茶を通してお客様に喜びと感動を感じていただけるように努める。自分をたいせつに」茶道の実践を通して、しつかりとした動かない心を養い、生き生きとした生活を送れる自分を作る。物をたいせつに「点前作法を通して道具の扱いを学び大切に

する。茶室や庭の掃除もすんでする。この学園の合言葉の実践を目指して、茶室「碧水庵」で岡本征枝先生のご指導のもと熱心に稽古に励んでいる。

文化祭では毎年テーマを決め、ほつま祭茶会を開催し、多くのお客様に呈茶している。また、県下で行われる栄西茶会、最上稲荷茶会、黒住教献茶祭などで、お点前、お運び、水屋のお手伝いをさせていたたい。

## 部活動紹介



平成6年から始まった現役部員とOBの交流茶会「竹園会茶会」では、近辺の教寄者の方々も参加され、濃茶席、薄茶席、点心席と部員達は活躍している。平成25年からは玉島高校茶道部員との交流茶会「ひな茶会」を毎年3月に開催している。この他にも、海外からの留学生が来校された際には、お茶室に招待し、茶道を通して交流したり、金光町内のイベントで参加者にお茶を楽しんでいただいたりと活動の場も広がっている。学生だけでなく様々な年代の方と交流することで、多くのことを学び、貴重な経験をさせてもらっている。

## 野球部

現在、中高あわせて約100名の部員で活動している。他の学校にない特色として朝練習では中高合同でミーティングを行い、中高の連携を図り、野球だけでなく、生活においてもお互いを刺激し合う中で、中高6年間かけて育てていく方針で行っている。中学野球部は「ポジティブな環境づくりを通して、多くの方に愛される野球部であろう」を土台として、様々なことを生徒たち自身が考えながら活動している。チームは13季連続で県大会に出場しており、2013年には全国ベスト16入りを果たした。今年5年ぶりに中国大会への出場をはたし、中国ベスト8となった。

高校野球部は「グランド・ベンチスタンドが一体となったチーム」になるために、野球部独自の委員会制度を設け、日々の練習、チーム運営、試合の目標や反省などを各委員会が中心となって主体的に活動をしている。2010年に夏準優勝、2015年には秋優勝し、中国大会ベスト8となった。近年ではベスト8やベスト16が続いており、もう一つ壁を破っていききたい。

中高6年間で勉強と野球の両立、真の文武両道を実現できるチームを目指し活動する中で、国立大学医学部や難関大学への進学、強豪大学野球部、社会人野球で活躍している卒業生も数多い。

献身的なサポーターをして下さる保護者、いつも応援して下さいる地域の方々へ感謝し、野球ができる喜びを持って「一日一生」の精神で悲願達成に向け、精進していき



## 「あいよかけよ」の学び

定平 真紀子

2018年も師走を迎え、何かと慌ただしいこの頃となりましたが、皆様におかれましては益々ご健勝のことと存じます。

振り返ってみますと、今年には日本列島各地での地震災害、火山活動の活発化による噴火、台風による豪雨災害と、過去に例をみないほどの自然災害に見舞われた年だったように思われます。

岡山県でも、7月に西日本豪雨により甚大な被害を受けました。金光学園の在校生のご家庭でも避難生活を余儀なくされている方もいらっしゃると思います。金光学園では、先生方がいち早く学園全体にボランティアを募り、たくさん生徒さんが現地入りされています。ボランティアに参加して今までに見たことのない光景を目の当たりにし、ショックも大きかったと思います。猛暑の中、被災したことも園や小学校での片付けや支援物資の運搬、整理を一生懸命されていました。ある生徒さんから、遠方各地や地元ボランティアの方々から温かく声掛けをしていただいて嬉しかった、がんばれたと聞きました。「あいよかけよ」の教えを実体験されたようです。

日々、当たり前のように日常生活を過ごしていますが、その平和な日常生活がどんなにありがたいことなんでしょうと考えさせられました。「あいよかけよ」の精神で互いを思いやる心を持ち、自然に対しても「あいよかけよ」の心を忘れずに日々過ごしていきたいと思えます。金光学園で勉強だけでなく、人としてどう生きるべきかを学ばせていただいていますことに感謝申し上げます。

最後になりましたが、被災地域の日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

(金光学園やつなみ保護者会副会長)

## 目次

|                    |    |
|--------------------|----|
| 巻頭言                | 1  |
| 金光学園創立124年記念式道(2)  | 2  |
| 自画像                | 10 |
| メタセコイヤ             | 12 |
| 活躍おめでとう            | 13 |
| 活躍する卒業生 坂ノ上博史・寺島万成 | 16 |
| やつなみ保護者会のページ       | 20 |
| 友愛セールご協力の御礼        | 22 |
| 会報                 | 24 |
| 国際化教育推進委員会         | 25 |
| 東京研修               | 26 |
| ほつま祭               | 32 |
| 体育会                | 34 |
| 高2修学旅行             | 38 |
| 探究授業報告             | 42 |
| 生徒入賞作品             | 54 |
| ある日のホームルーム         | 56 |
| 生徒会活動              | 58 |
| 学園だより              | 68 |
| 教室の窓から 編集後記        | 72 |

# 金光学園創立124年記念式



金光学園創立124年記念式が、11月16日、厳かに挙行された。晴天の下、朝8時30分、校長と生徒代表（高3山本晴斗君、中3虫明紗桜理さん）が本部広前に参拝し、教主金光様にお礼のお届けをした。8時45分、全校生徒、教職員揃って本部会堂前より参拝し、その後、教団墓地と初代校長の頌徳碑を巡拝して帰校した。

ほつま体育館に、28名のご来賓をお迎えし、金光学園中学・高等学校の生徒1084名、教職員が一堂に会し、10時30分に音楽部吹奏楽団と音楽部コーラスによる「神人の栄光」の演奏で祭事が始まった。まず、感謝祭が行われ、学校法人金光学園理事長の祭詞に始まり、各代表より玉串が奉奠された。

式典では、国歌斉唱の後、25年勤続の安田智幸教諭が表彰を受けた。続いて校長式辞、金光教務総長祝辞、生徒代表の所願表明の後、金光学園歌斉唱で式典



は締めくくられた。

休憩の後、13時00分から齋藤泰雄氏（JOC副会長、元ロシア・フランス大使）より記念講演をいただいた。演題は「オリンピックと外交から見た日本〜後輩たちへ伝えたい日本の魅力〜」。大使としてのご経験、平昌冬季五輪に出場した選手達の活躍の模様を通して、グローバル

社会における日本の魅力について後輩達に熱く語られた。講演の後には有志生徒との懇談会も実施された。その後、16時にはつま体育館で全教職員の記念写真を撮影した。

## 式辞

校長 金光 道晴



11月も半ばになり、朝晩は肌寒さを感じる季節を迎え、毎日のようにあちこちから紅葉のたよりが伝えられています。しかし、2〜3か月前には、この岡山

の地でも連日40度に迫る猛暑や、相次ぐ大型で強い台風の接近や上陸、さらに大阪や北海道での地震、とりわけ7月の西日本豪雨では、晴れの国、災害の少ない所であったはずの岡山県でも真備町をはじめ大変な豪雨災害が起こり、本校生徒の家庭でも大きな被害が発生しました。徐々に復興・復旧が進んでいますが、被災した家庭が一日も早く元通りの生活に戻れますよう、共々にお祈りしたいと思います。

そのような思いもしないようなことが、次々に起こった年でありましたが、わが金光学園では、晩秋の今日の穏やかなお日和の中で、こうして創立124年の記念式を麗しく挙行させていただきましたことは、誠に有り難く嬉しいことでもあります。ご来賓の皆様には本日は公私ともにご多用の中、ご臨席を賜り誠にありがとうございます。心から御礼申し上げます。

今朝ほどは、創立記念式に先立ち、全校生徒・教職員そろって金光教本部広前に御礼の参拝をさせていただき、さらに木綿崎山の教団墓地や、初代校長佐藤範雄先生の頌徳碑を巡拝して、先ほど帰校し、このように創立記念式に臨ませてい

ただいておりますことは、誠に有り難いことであります。

さて、この創立記念式の校長式辞では、毎年学園の歴史や卒業生の話題などを取り上げお話ししておりますが、本日はこの写真の方のお話と、この方がおっしゃられた「にちにちがさら」という言葉についてのお話をさせていただきます。

生徒の皆さんはこの方が誰かわかりますか。誰なのかわからない人がほとんどかもしれません。この方は金光攝胤様と申され、金光教祖様の孫にあたられる方です。学園のお茶室の名前にもなっている碧水の号で知られている、歌人で書家でもあられた、前教主金光鑑太郎様のお父上にあられる、三代金光様と言われている方です。既に55年前にお亡くなりになられておりますが、かつて、今の金光学園の理事長にあたる校主というお役をお勤め下さった方でもあります。

先程参拝した木綿崎山の教団墓地は、歴代教主の奥城でありますので、この三代金光様、攝胤様も祀られておられます。三代様は、教祖様が亡くなられた跡をうけられた二代金光様が、40歳という若さで亡くなられたため、この攝胤様は実に



13歳という若さでその跡を受けられることになりました。そして83歳でお国替えなされるまで、実に70年間、お正月もお盆も日曜日も祝祭日も一日も休みもなく、それも毎朝の早朝四時前から、夕方まで、ひたすら人々のために祈り続けられ、金光教の本部広前で、お取次のご用に当られた方です。

13歳と言えば今の中学1年生・2年生の年齢です。友達と遊んだり、朝もゆつくり寝たかったりという時もあったと思います。攝胤様はご自身の若い時のことを振り返られて、次のように語られています。「最初のうちは辛うて辛うて泣きましたがなあ。親様の教えを守らしてももうて、泣く泣く辛抱しいしいに、座つとりましたら、欲しいものも、考えることも、いつの間になくなりましてなあ。ありがとうて、ありがとうてならぬようになりましてなあ。なんほう御礼を申しても、足りませんのじゃ。御礼の足りませぬお詫びばかりしておりますが、勿体ないことであります」と言われるのであります。そのような方から、信奉者からは生神様と呼ばれるようになった方です。

しかし一方で、ご神勤40年以上たつたのある日のことですが、初代校長のご子息であられた佐藤一夫先生に「何十年つとめても、油断がなりません。『にちにちがさら』です」ともおっしゃられたという話が伝えられています。「何年たつても、日々の改まり」が大切で油断がならない自分であると、ご自身を戒められておられるのであります。

「さら」というのは岡山弁で新しいという意味ですが、この「にちにちがさら」という言葉は、金光学園では合言葉と同じように、ずっと大切にされてきた言葉であります。実は校長室には「にちにちがさら」と書いたものが沢山置かれています。そのいくつかをここに持ってきています。例えば皆さんの入学の時にお渡ししたこの日めくりの表紙には「にちにちがさら」と書かれています。

これは、創立90年記念の記念品です。後ろの人には小さくて見えないと思いますが、この視屏にも、「にちにちがさら」という言葉が刻まれています。これは校長室の机の上にある置物ですが、これも「にちにちがさら」と書いてあります。このパネルは六代校長の加賀道郎先生

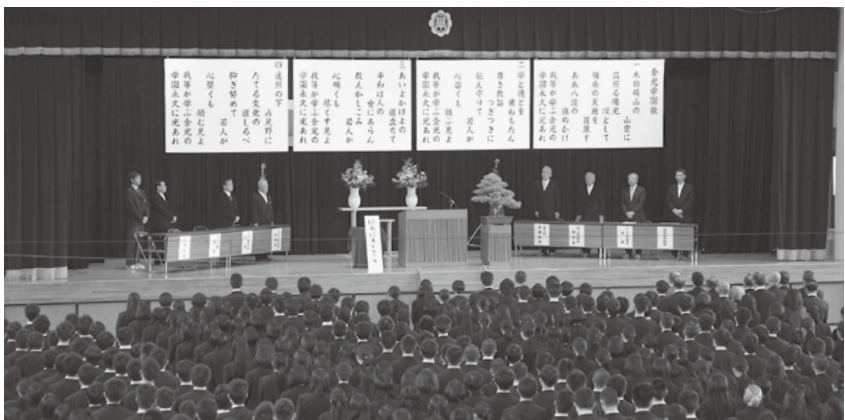
が作られたのですが、やはり「にちにちがさら」という言葉が書かれています。私達は毎日毎日同じような日の繰り返しとさえ、ついつい惰性で過ごしたり、反対に前日のことを翌日に引きずったり、持ち越して過ごしたりすることがしばしばあります。私自身の事を考えても、毎日毎日新しい気持ちで迎えさせてもらっているかという決してそうとは言えませぬ。三代金光様は日々を思い返し、日々改まりの気持ちを持って迎え、毎日毎日を大切に過ごしていく、そこそが大事だとおっしゃるのであります。

今日の創立記念式も、そうであります。毎年同じように行われている恒例の一行事には違いありませんが、そのようなとらえ方でなく、今日は金光学園の1年に一度の大切な誕生日ですから、ここまで歩ませていただいたことに心からの感謝と御礼を申し、ここから、また新たな心持ちで出発するための大切な日なのであります。教祖様も、「信心は日々の改まりが第一である。毎日元日の心で暮らし、日が暮れたら大晦日と思い、夜が明けたら元日と思つて暮らすことが大切である」とみ教え下さっています。

しかし、私達の日常の生活の中には、日々様々な問題が起こってまいります。もちろん楽しいこと、嬉しいこと、元気の出ることも沢山ありますが、反対に悲しいこと、残念なこと、苦しいことも、また沢山起こってまいります。しかし、そのような日常だからこそ「にちにちがさら」であります。日々毎日を新しい気持ちで迎え、今日今日、その日その日、その時その時を一生懸命大切に生きていく、そこそが大事なことだと思つてまいります。

どうぞ皆さんも今月今日を「にちにちがさら」の気持ちで迎え、過ごしていただきたいと思います。そしてどうぞこれから一層金光学園の良き伝統を受け継ぎ、大切にし、さらに発展させていっていただきたいと思うのであります。共に頑張ってまいります。

それでは最後に金光学園の合言葉を申し上げて、平成最後の創立記念式の式辞とさせていただきます。「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」学園百二十四歳の誕生日、誠におめでとございます。



## 来賓祝辞

教務総長 西川 良典

(総務部長 三浦 義雄 代読)

本日は、創立14年となる記念式を迎えられましたこと、私を含めご来賓の方々と共に心よりお祝い申し上げます。

本学園の創立を振り返りますと、初代校長の佐藤範雄先生が、金光教の教祖である金光大神様にまみえられたことに始まります。先生は初めて教祖様のもとに参拝された時、「人を助ける身になれよ」とのお言葉を受けられました。それ以来、足繁く教祖のもとに参拝される中で、次第に「人が助かるための学校」「世と人のお役に立つ人材が育つための学校」の必要性を感じられるようになりました。

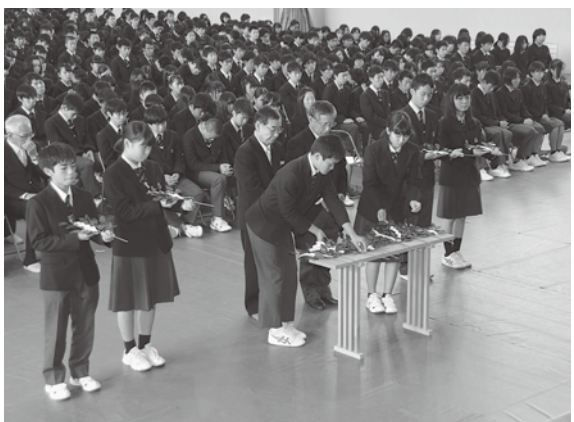
金光学園は明治27年の創立以来、「心の教育を土台にした人間教育」の精神に基づいて学風を育み、「世と人のお役に立つ人材が育つ」ということを願ってこられ、本日ここに、創立14年の記念式を迎えられましたことは、私どもにとりまして、まことに感慨深いことでございます。

さて、金光教祖は「天が下の者はみな、神の氏子である。天が下に他人はない」人

の身が大事か、わが身が大事か。人もわが身もみな人」と教えられました。

私たちは一人ひとり個性をもち、喜びや悲しみ、それぞれの楽しみや苦しみを持ちながら生きています。そのような違いはありましても、みな等しく、神様からのちを授かっている神様のいとこ子同士であります。本学園の「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」という合い言葉にはそうした神のいとこ子として、天地の恩恵に感謝し、互いのいのちを尊び合い、共に助け合って生きていってほしい、という教祖の願い、神様のお心が込められているのだと思います。

本年7月には、ここ岡山県は今まで経験したことのない豪雨に見舞われました。西日本各地で甚大な被害となり、学園の生徒さんのご家庭でも、被災された方があると聞いております。心よりお見舞い申し上げます。家や車が水に浸かり、命が失われ、今も完全復興とは言えない状況ですが、大勢の方が「被災地のお役に立ちたい」とボランティアへ行かれたり、大量の支援物資が被災地に送られました。この「被災地のお役に立ちたい」という



心から敬意を表しますとともに、これからも元気に勤められますようお祈り申し上げます。また、学校法人関係の方々をはじめ、校長先生、教職員の皆様には、今日まで学校の運営・教育の上に、ひとかたならぬご尽力を頂いておりますことをあらためて厚く御礼申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 所願表明

生徒代表 上川 滉太



金光学園は今日創立14年を迎えました。この14年という長い歴史の中で、二万二千人を超える先輩方がこの金光学園で学び、社会で活躍されてきました。多くの先生方・先輩方の努力によって築き上げられてきた歴史あるこの金光学園で、日々学べることの素晴らしさを実感しています。そして、明治、大正、昭和、平成という時代を通して受け継がれてきたこの伝統のバトンを、平成最後のランナーとして私たちが受け継ぎ、金光学園の更なる発展を願い後輩たちへと繋いでいこうと思います。さて、今年も心に残る出来事が数多く



精神は、まさに合い言葉の「人をたいせつに」ということであります。金光学園はこの精神を育むことができた学校です。私は皆様に金光学園でこの精神を育てて頂きたいと思っておりますし、卒業後も人生の指針として大切にして頂きたいと願っております。

最後になりましたが、本日、永年勤続で表彰をお受けになりました方は、ご自身の持ち場にあつて、実意に職務に尽くしてこられました。そのご努力に対し、

ありました。中でも10月1日に京都大学特別教授の本庶佑教授がノーベル医学・生理学賞を受賞されたことは、皆さんの記憶にも新しいことだと思います。同教授は、免疫を抑制するタンパク質を発見し、がん免疫治療薬「オプジーボ」を開発しました。そしてこのことが、画期的な免疫療法を確立し、がん治療に新たな道を切り拓いたとして、高い評価を受けたのです。私も研究を志す人間の一人として大変うれしく誇らしい限りです。しかし、私は今回の受賞も含め日本の研究環境におけるある問題を感じています。それは、研究と実学の間に大きな壁があるということです。日本では学生が受動的であるという現状を多くの大学教授が問題視していることや、産官学のつながりが弱く研究成果を実社会へ応用することが難しいことなどの問題によって、研究と実学との間に大きな隔たりが生まれています。

私は2年間、流星を対象とした研究を行い、数多くの大会に挑戦し、今年の5月にはIntel ISEF(国際学生科学技術フェア)という世界大会に日本代表として出場するという貴重な経験をさせていただきました。

## お届け

金光様、日々ご祈念いただきありがとうございます。  
私たち金光学園中学・高等学校は、今年創立124年を迎えさせて  
いただきました。これまでお世話になったすべてのものに感謝し、  
お礼申し上げます。

在校生一同、本日の創立記念式を心からお祝いさせていただく  
とともに、学園生全員がこれからの金光学園発展に向けて、より  
一層努力していきますよう決意を新たにしたいと思います。

特に高校3年生におきましては、受験を目前に控え、追い込み  
の時期に入っております。全学年の生徒一人ひとりが、健康でそ  
れぞれの目標を達成することができますよう、どうぞ神様にお取  
り次ぎください。

今後ともお祈り添えをくださいますよう、よろしくお願い申し  
上げます。

ありがとうございます。

生徒代表

山本 晴斗  
虫明紗桜理

きました。世界31カ国から高校生が集まっ  
ており、大学の研究機関で行った研究を  
発表する人がいるかと思うと、経済的な  
理由で十分な研究機材がない中で行った  
研究を発表する人もいました。そのよう  
な人々と英語で意見を交わし、研究に対  
する想いを伝え合う中で、どの参加者も

自分の研究に自信を持っていることを肌  
で感じました。その姿を目の当たりにし  
た私は、学びは環境ではなく自分自身の  
学びたいという意欲次第であるというこ  
とを実感したのです。私はこの経験を通  
して、自分の置かれている環境を最大限  
生かして挑戦を続けることの重要性を学

に自分を鼓舞してきました。これから先  
の人生において、大きな壁にぶつかると  
もあるかもしれません。そのような時

は立ち止まって足踏みしてもいい、た  
だ前を見据え前進することを忘れないこ  
と、それがいずれ大きな一歩へとつな  
ると自分を信じる気持ちを大切にして  
きたいと考えています。

このように、私は学園生活の中で様々  
なことに挑戦し多くのことを学ぶこと  
ができました。しかし、これは私たち生徒  
に寄り添い可能性を引き出してくださる  
先生方や、高い目標を分かち合うこと  
ができる仲間がいたこと、そして挑戦す  
ることが可能な環境が整っているこの金光  
学園だからこそ経験できたことだと思い、  
改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

私がこれらの経験を通して、皆さんに  
伝えたいこと、それは、叶えたい夢や目  
標を明確に持つことの大切さです。そし  
て、実現させるために計画を立て、信念  
を貫く努力を惜しまず、心から学びたい  
と思う学びを見つけてみてください。そ  
うすれば自分らしさを発揮できるものを、  
必ず見つけることができます。

6年間の素晴らしい学校生活を送るこ  
とができたこの金光学園での生活も、私  
たち高校3年生にとっては残りわずかか  
となりました。そして将来に向けて受験と



びました。そして自分の研究成果を社会  
へ応用できるように、どれほど困難に  
思える壁に直面したとしても、挑戦心を  
忘れず前進し続けようと固く誓っていま  
す。

また、私は勉強や研究以外にも様々な  
ことに取り組んできました。高校3年間  
陸上競技部に所属し、日々練習を積み重  
ねた結果、全国大会に出場することもで  
きました。しかし、うまくいくことばか  
りではなく、数多くの困難や挫折を経験  
し、諦めようと思ったこともありまし  
た。そのようなとき、初心を思い出し、「諦  
めることを諦めよう」という言葉ととも

いう高い壁を乗り越えようと必死で努力  
をしている毎日です。皆さん、叶えたい  
夢を目標に変え、実現するために、一歩  
ずつ着実に前進し続けていこうではあり  
ませんか。

私たちは多くの方々に支えられて今を  
生きています。金光教の「おかげは和賀  
心にあり」という教えを胸に、日々の生  
活を支えてくださる方々への感謝の気持  
ちを忘れることなく、向上心を持って挑  
戦し続けたいと思います。最後になりま  
したが、金光学園のさらなる発展を願  
い、所願表明とさせていただきます。





# 道

(22)

金光 道晴

いついっまでも大切にされている

## 「母校の心」「合言葉」

私は立場上、学園卒業生の同窓会に出席する機会が多く、その度に卒業生の方々から応援や叱咤激励など様々な熱いメッセージをいただきます。とりわけこの2学期に開催された同窓会では、沢山の元気や感動をいただきましたので、そのことを書かせていただきます。

今年は喜寿を迎える2つの期の同窓会が10月と11月に、続いて開催されました。喜寿というのは言うまでもなく77歳のことです。「喜」という字は古い字では七という字を3つ並べて崑を「喜」と読むことから77歳を喜寿といい、長寿を祝います。昔から60歳の年は「還暦」、70歳の年は「古稀」、80歳の年は「傘寿」、88歳の年は「米寿」、90歳の年は「卒寿」、99歳を「白寿」などといって、それぞれその年齢やその字の意味するところをもって、長寿を祝い、喜び合いますが、高校12回卒業の期の方々は、満年齢で77歳の喜寿の記念同窓会として、1学年下の高校13回卒業の方は数え歳の年齢で77歳の喜寿の記念同窓会ということで開催されたのであります。

ちなみに、どちらの卒業生の方々もそのプログラムの中に、母校訪問を組み込まれておりましたので、私にとっては大先輩

私もとても楽しみに出席させていただきましたのでありますが、60代の3人の方がお越しになっていました。「エン・ジャパン」の越智通勝会長さん、「ワコール」の安原弘展社長さん、「長谷工コーポレーション」の辻範明社長さんという経済界を代表される方々が、それぞれスピーチをされました。3人の方々は、自分が創業し一代で大企業になされた方や、自分が新入社員として入社し、様々に困難な中を叩き上げて大企業のトップになられた方でありました。講演の時間はわずかな時間でありましたが、自らの経験を元にした、一つ一つの言葉には大きく深いものを感じました。私が一番嬉しかったのは、3人が3人とも「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」という学園の合言葉をずっと大切にしてきたし、今も大切にしている」と言われたこととあります。それぞれの言い方には違いがありますが、企業の経営においても、企業の同僚や上司部下の関係においても、商談や取引においても、学園の合言葉の精神を大切にできたと言われるのであります。中には結婚式に出席した時などに新郎新婦へ贈るメッセージに必ず「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」という言葉を書いているという方もおられました。50年も前に学んだ「母校の心」「合言葉」を大切にされてきたということに改めて聞かせていただき、大変嬉しい気持ちになったのは私だけではなかったと思います。

最後に同窓会でのことではありませんが、今年の創立124年の記念式の記念講演には、韓国の平昌オリンピックの日本選手団の団長で、現在JOC（日本オリンピック委員会）の副会長を

方が母校にお越しいただくのですから、両同期会ともに、後輩として、校長として、校内を案内させていただいたり、少しく学園の歴史やら、近況報告など、お話もさせていただいたりしました。

参加された皆さんは、卒業して60年近くが過ぎているにもかかわらず、一瞬にして遠き昔の中学生や高校生にタイムスリップされたようで、学園の青春時代に帰り、生き生きと話をされておられるのであります。誠に失礼ながら後期高齢者を迎えられているいわゆるお年寄りの方々であります。笑顔いっぱい「君」「ちゃん」と呼び合われる様子には若干の違和感がなかったわけではありませんが、誠にほほえましく、本当に生き生きと話されている様子を拝見して、こちらの方が元気をいただいたようなことであります。そんな姿を拝見しながら、「今の生徒たちが果たして卒業して50年も60年もたっても、あのよう素晴らしい同窓会を開き、旧交を温めることができるだろうか、いや是非そうあってもいいものだ」とふと思つたようなことであります。そして何より嬉しかったのは、その参加者の方々が、学園の「合言葉」をはじめ、「母校の心」をいついっまでも大切にされているということとあります。本当に心温まる同窓会でした。

9月の終わりには「東京はつま会」という同窓会の東京支部会に出席させていただきました。今回は会に先立って、懇親会の前に、主に経済界で活躍なさっている卒業生で、それも東証一部上場企業の会長さんや社長さんをお招きして、スピーチを聞かせていただくという計画がなされておりました。したがってなさっておられる卒業生の齋藤泰雄さんにお越しいただきました。（別ページでも紹介。）外交官として、フランス大使やロシア大使などを歴任された方ではありますが、齋藤さんはオリンピックにかかわる中で、「人間力なくして競技力の向上はない」と強く感じたことを、様々な選手たちのエピソードを交え、生徒たちに話していただきました。また「来る2020年の東京オリンピックでは、日本の素晴らしさを世界の人々に見てもらおう絶好のチャンスである。日本の素晴らしさをみんなが自覚し、世界のために日本の力を役立ててもらいたい」とも話されました。そして「自分のここまでの歩みの基礎は金光学園で受けた教育が元になっている」と言われ、「人は一人で生きていくことはできない。学園の合言葉には『人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに』とあるが、違うもの同士が共に生きていくためにも、合言葉の精神を大切に、好奇心とチャレンジ精神を持って、世界に向かって日本の魅力を大いに発揮できるチャンスを、みんなで生かしたいと強く願っている」と話されました。これも大変嬉しいことであります。

この秋は学園を卒業して50年も60年もたっても、なおなお母校の心を大切にされ続けてこられた先輩方にお会いする機会が多く、その度に母校で学んだ「心」や「合言葉」の精神を大切にされてきたことを度々聞かせていただき、私として大変嬉しかったのであります。そして、現在の在校生にも、やがて卒業して何十年たっても在校時に学んだことを忘れずに大切にしていると言ってもらえるような学園教育を進めていかなければならないと改めて思わせていただいているようなことであります。





佐守 謙一



幼稚園、中学、高校、さらに教育実習も学園でお世話になりました。大学卒業後、40年ほど県立高校に勤務してきましたが、今回、母校金光学園に帰ることができました。

自宅が町内なので近所にも学園の先生が大ぜいおられました。思い出してみると北から、佐藤一徳・元信先生、金光道晴先生、尾原道興理先生、金光文四郎先生、金光佳賀雄先生、(わが家があつて)大橋金先生、加賀道郎先生、寄宿舎には佐藤若雄先生がおられました。学園を支えてくれた(支えておられる)懐かしい先生方です。私の生涯の進路のきっかけも中学3年の時でした。国語の武田先生が授業中に紹介してくださった太宰治の『人間失格』に衝撃を受け、それが大学国文科への進学、国語教師という現在の職業にまでつながったのだと思っています。

昔を思い出してばかりでは仕事になりません。生徒はもちろん、若い先生方とも話を通じるか不安もありますが、精一杯がんばります。なにしろ50年も昔に担任をしていただいた安達先生が今も現役に教えておられるのですから。負けられません。



藤原 祐気

今年度より金光学園に勤務させていただきましたことになりました。藤原祐気と申します。

中学3年生の学年団に所属、5組の副担任をさせていただくことになりました。授業は中学2年生の理科I、中学3年生の理科II、高校2年生の探究授業を担当させていただきます。また、部活動ではソフトテニス部と科学部を受け持つことになりました。

私は学園在学中、科学部で活動していました。科学部では楽しいことから難しいことまで、様々な経験をさせていただきました。当時の顧問の先生も私のために時間をとってくださいました。昨年の教育実習の時も、勉強、部活動など生徒のために先生方が真剣に答えているところを目にしました。学園の生徒と先生が向き合う姿勢というのは私が在籍していたころと変わって

### Shawn Barva



Hello, My name is Shawn Barva. I'm from the United States of America. I have lived in Japan for 18 years. In America I was a high school social studies teacher. When I was a student, I played baseball, basketball, and ice hockey. Now, I only play golf.

ないと感じました。そんな学園の一員に再びなれることをとてもうれしく思います。生徒の立場から教師の立場へ変わるということで気を引き締めて行きたいと思っています。これから生徒たちと一緒に授業や学校行事などを通じて、楽しい学校生活と金光学園でよかつたという思いを作っているように頑張っていきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひ致します。



# メタセコイヤ

## 平成30年度教育者文部科学大臣表彰受賞

金光 道晴校長



この度の教育者文部科学大臣表彰の受賞の榮譽に浴しましたことに、心から御礼を申し上げます。文部科学省での大臣からの表彰に続き、皇居では平成もあ

数か月となった現天皇陛下の拝謁を賜り、ねぎらいのお言葉や西日本豪雨災害へのお見舞いのお言葉などを賜り、誠にありがとうございました。この賞は言うまでもなく、金光学園を代表して受けさせて頂いたものであり、今後も一層、学園教育発展のために、力を注いでまいりたいと決意を新たにしているところであります。

## 私学協会功労者表彰を受賞

小野 泉先生



小野泉先生が平成30年度岡山県私学教育功労者表彰を受賞されました。

「身の引き締まる思いです。右も左もわからないところから、みなさまに支えられて何とかここまで勤めることが出来ました。これからも、頑張っていこうと思っておりますのでよろしくお願ひ

します」と語る小野先生のますますのご活躍をお祈りしています。本当におめでとうござります。

## ノースアジア大学コンテスト最優秀賞

高2 平佐 友梨乃 丸野 可奈恵

10月26日に、秋田県にあるノースアジア大学で開催された「第6回高校生私達のまちの観光魅力アップコンテスト」で、高校2年生の平佐友梨乃さんと丸野



可奈恵さんが、「日本の経済成長を知る旅プロジェクト」と題してプレゼンテーションを行い、最優秀賞を受賞しました。平佐さんと丸野さんは、探究授業で人文学ゼミに所属。地域創生をテーマに、岡山の魅力を国内外の人にアピールするアイデアを創作するために、県内の様々な観光地や関係者を訪問し、自ら情報を集め、今回のプレゼンを作成しました。平佐さんは、「考え抜いてプレゼン資料を作った経験は、今後、様々な場面で生かされると思います」と語り、丸野さんは、「秋田で岡山の魅力を伝えられたことが嬉しく、最優秀賞を取れたことが自信につながりました」と受賞の喜びを語りました。

### 浅口市長杯中学生英語スピーチコンテスト 暗唱の部 優勝

中3 石原 采佳

中3の石原采佳さんが、第11回浅口市長杯中学生英語スピーチコンテストに出場し、暗唱の部で優勝しました。以下は出場しての感想です。

スピーチコンテストで優勝できたことによって、英語を話すことに自信が持て



るようになりました。今まで、英語で会話をすることに苦手意識があったけれど、これからは自分から積極的に話しかけてみようと思います。この経験をいかして、今まで以上に英語の勉強も頑張っていきたいです。最後に、放課後、スピーチのアドバイスをしていただき聴いてくださった先生方、本当にありがとうございました。

### 浅口支部中学校弁論大会 優勝

岡山県中学校弁論大会に出場 中3 岡邊 こむぎ

中3の岡邊こむぎさんが、浅口支部中学校弁論大会で優勝に当たる浅口支部代表に選出され、11月12日に山陽新聞本社で行われた岡山県中学校弁論大会に出場しました。以下は出場しての感想です。



西日本豪雨災害での被災、ボランティアへの参加、病気を患う家族、平和学習で学んだこと……どの弁論も個性的で、内容、話し方、表情全てにおいて、相手に思いを伝えるということが重視されていて、クラスで調べたことを発表するのとは違う熱を感じました。会場の雰囲気にも圧倒されましたが、落ち着いて弁論でき、安心しました。自分の考えを自分の言葉で表現することの重要性が高まる中で弁論大会をこれからも続けてほしいです。

### SSH生徒研究発表会

高2 詫間 友規

中塚 萌々

8月8日～9日にかけて、神戸国際展示場でSSH生徒研究発表会が行われ、高校2年1組探究クラス天文ゼミの詫間



友規、八方悠、中塚萌々が学園の代表として、「食麦光星YYERIの研究」のテーマで発表を行った。今回は、ポスター発表での参加であったが、夏休み中スライド準備や発表練習を行っていたこともあり、本番では発表を多くの人に伝えようという姿勢が見られ、楽しんで発表を行っていた。質問に対しても連星モデルを示したり、PC画面を操作したりして互いに協力して明るく元気に対応していた。Good Job シールも他校に比べてもたくさんもらっており、3名は今回の発表を通して自信をつけると共に、全国の高校生や研究者と交流することで多くの刺激が得られたようであった。今回の取り組みとしては、今回の発表会で

得られたことを活かしていくと共に、現在行っているデータの解析作業を進め、さらに研究を進化させて、その成果を様々な発表会で発表していく予定だ。

### 「岡山イノベーション」コンテスト 2018「審査員特別賞」

高2 山本 幸歩

私は教育ゼミでフィンランドの教育について研究を進め、夏休みには一人で現地の学校や学童保育を訪問しました。これらの探究活動が「子ども達が外国語や異文化に触れ合う留学生を雇った学童保育」というビジネスモデルを考え、きっかけになりました。そして岡山シンフォニーホールの大きなステージでファイナリストとしてこのプランを発表し、賞を戴くことができました。限られた短い時間の中で伝えたいことをまとめ、聞いている人の印象に残る、インパクトのあるプレゼンをする難しさと楽しさを知りました。また今回の経験を通して、様々な人となりが、世界が広がることの素晴らしさ、新しいことに挑戦する大切さも分かり、とても良い勉強になりました。受賞は聞いてくださった方々からの応援

### 「全国高校生イラストコンテスト」 2018「最優秀賞」

高3 姫路 水歌

このコンテストは、中学生・高校生・予備校生を対象に、株式会社さんぼう主催の美術・デザイン・クリエイティブ・ものづくり系作品展示+進学相談会の会場にて、作品を募り、実施されるもので、2018年は北海道から九州まで全国の会場で開催されました。今年度のテーマは「私の地元自慢」。姫路さんの作品は岡山会場で最優秀作品に選ばれ、さらに全国大会で日本一に輝きました。おめでとうございます。



# 活躍おめでとう

音楽部吹奏楽団

全国高等学校総合文化祭に参加

高2 服部 直樹

私達は8月9日から長野県松本市で開催された全国高等学校総合文化祭に、吹奏楽部門の岡山県代表として出場させて頂きました。

今回私達は、「岡山県代表」という事でしたが、代表選出の1つの基準でもある「吹奏楽コンクール」に私たちの楽団は4年間出場しておらず、評価していただくことが



難しい状況であったのではないかと思います。ですがたくさんの方々にお力添えいただいたおかげで、創部史上初となる参加が実現しました。御礼申し上げます。演奏曲目は「strange humor」、「煌夜〜祭りの幻想〜」の2曲を選びました。全国から集う舞台にふさわしい曲を演奏したいと考えていたので、普段演奏しているポップスを封印し、コンクールで演奏されるようなものになりました。どちらも私たちにとって難易度が高く、より演奏技術を高める必要がありました。特に苦労したのが「煌夜〜祭りの幻想〜」です。この曲は青森民謡が素材になっています。それぞれ民謡が持つ特徴を表現するのはもちろんですが、日本独特の雰囲気をも自分たちで作ることがなかなかうまくいきませんでした。練習は細かいところまで地道にすることを意識し、完成度を高めていきました。同時に部員一人一人の責任感もだんだんと強まってきた

て、部全体の結束力も高まりました。

そして本番当日を迎え、いよいよ練習の成果を発揮する時が来ました。会場には全国各地から代表の団体が集まっています。緊張しましたが、私たちが岡山県代表としての誇りを持ち、自分たちの最高の演奏ができるように頑張りました。本番が終わった後、部員全員が満面の笑みだったので、それぞれの目標が達成できなかったのではないかと思います。本日に今まで努力してきたよかったですと思う瞬間でした。

文頭でも書きましたが、大会に参加するにあたり、ご尽力いただきました関係者の皆様、日頃から応援してくださる地域の皆さん、そして顧問の先生、一番身近で応援してくれる家族、すべての人に御礼申し上げます。今後は総合文化祭での経験をいかし、今まで以上にお客様に楽しんで頂ける演奏をしていきたいです。ありがとうございました。

中3 岡本 れいら

私たちは、8月9日〜10日に長野県松本市で開催された全国高等学校総合文化祭に参加させて頂きました。

演奏した曲は2曲でしたが、全国大会という事もあり、普段の演奏会ではとりにくいような難易度の高い曲目でした。どちらの曲にも複雑な拍子が多く、最初は練習の仕方すらわからない状況でした。しかし、練習を重ねるにつれ、短い期間ではありましたが、全員が確実に成長していきました。初めて合奏をした時は、一緒に演奏しているのにバラバラになっているような演奏でした。しかし、パートや各セクションで練習をする中、それぞれが意識を高く持つことで部員全体がまとまっていきました。

本番では、他の部員の緊張した顔をたくさん見ましたが、私は今までの成果を全て発揮する時がやっときたと、わくわくしていました。本番後には全員がやりきったという達成感に溢れた顔だったように思いました。このパートで、メンバーで、部員全員で頑張った良かったなと思いました。

私は今回の経験を通して、仲間とお互いを高め合い、成長する事を学びました。そして、この経験をほつま祭や体育会でも活かすことができました。これからの活動や、社会人になってからもこの経験

を活かしていこうと思います。そして、いつも応援し、支えてくれている家族、顧問の先生、全ての方に心より御礼申し上げます。私たちはまだまだ伸びしろだらけです。どうぞこれからも私たちの成長を楽しみに応援してください。本当にありがとうございました。

カンボジアスタディーツアー

高2 田中 茉莉子

私は8月4日から8月11日まで日本ユネスコ協会連盟主催のカンボジアスタディーツアーに参加しました。カンボジアには過去の内戦で教育制度が崩壊したという歴史があります。そのため、ユネスコ協会は寺子屋運動という活動を行っています。私は寺子屋運動を見学してきました。寺子屋に通う子どもたちとあやとりや折り紙を一緒にしたり、似顔絵を描きあったりしました。

子どもたちが決している環境の中、目を輝か



せて勉強している姿がとても心に残りました。これからも、私にできることは何か考えて、実行に移していきたいです。

マリンチャレンジプログラム 中国四国大会に参加して

中3 田中 宏樹

モクズガニは、降河回遊種(海で発生し、川へ遡上して、成長、成熟した個体は海へ下って産卵する種類)である。岡山県の高梁川の河口付近では、モクズガニ漁が行われてきた。近年、その漁獲量が減少傾向にある。その理由のひとつとして考えられているのが、河川横断構造物(ex堰やダム)の設置によるモクズガニの遡上への障害である。私

たちは、どのような条件の河川横断構造物が、モクズガニの遡上へ影響を与えるのかを明らかにしたいと考えている。モクズガニ



二の保全のために、生息しやすい河川環境の保全に貢献することを目的とした研究を行った。

本大会では、私たちは里見川に設置された河川横断構造物の影響を明らかにするために、環境DNAを用いたモクズガニの推測分布を推定した調査について、中学1年の田中希莉子、中学2年の山下恵知、中学3年の田中宏樹で発表した。プレゼンテーション発表では、審査員からの鋭い質問にも、冷静に回答できた。ポスター発表では、他校の高校生研究者と積極的に意見を交わしたり、質問しあったりして、刺激を受けた。モクズガニの保全に向けて、これからも研究に励んでいきたい。

最後になりましたが、研究を進める上でアドバイス等をいただきお世話になった皆様に、心より感謝申し上げます。

### 第45回全日本中学校陸上競技選手権大会・第49回ジュニアオリンピック陸上競技大会に参加して

中3 安福 柊汰

僕は、8月18～21日に岡山県で行われた全日本中学校陸上競技選手権大会と、

も感謝しています。そして、この中学校野球部での経験を生かし、これからも文武両道を目標に掲げ努力していきたいと思えます。

### 中国大会・全国大会に出場して

#### 中学校少林寺拳法部

8月18日・19日に東京都八王子市で開催された「第12回全国中学生少林寺拳法大会」において、男子単独演武の部に中3塩路雄也・中2田淵春成・友田隼咲、女子単独演武の部に中3山田優衣、女子組演武の部に中3難波日奈子・虫明紗桜理組が出場した。塩路、山田、難波、虫明組は準決勝進出、田淵は決勝に進出し、第11位となった。



### 高校少林寺拳法部

6月16日・17日に岡山市で開催された「第28回中国高等学校少林寺拳法選手権

10月12～14日に神奈川県で行われたジュニアオリンピック陸上競技大会に出場しました。このような大きな大会に出場するのは初めてでしたが、まわりの空気にのまれないように参加することができました。

岡山での大会では、準決勝まで進出することができました。決勝には出場できませんでしたが、新たな課題が見つかったので、自分にとってはとてもためになる大会になりました。

神奈川県での大会では、第5位で入賞することができました。このような全国での舞台で入賞することができたのは、とても光栄なことでした。そして、このような場で走ることができたのは、毎日ご飯を作ってくれたり送り迎えをしてくれたりしている両親のおかげだと思っています。とても感謝しています。また、共に練習に励んだ部の仲間や、忙しい中



(写真右から3番目)

大会」において、男子単独演武の部に高3佐藤謙成・高1坂本莉来、女子単独演武の部に高3森藤由衣、女子組演武の部に高1塩谷明美・難波朋楓組、能勢采奈・高橋南成子組、女子団体演武の部に高3森藤由衣・高2米村咲南・塚本陽依吏・高1塩谷明美・難波朋楓・能勢采奈・高橋南成子・原田麻未が出場した。佐藤と森藤は決勝に進出し、佐藤は優勝、森藤は第5位、女子団体は第2位となった。8月3日～5日、愛知県西尾市で開催された「平成30年度全国総合体育大会」において、男子単独演武の部に高3佐藤、女子団体演武の部に高3森藤・高2米村・塚本・高1塩谷・難波・能勢・原田が出場した。佐藤は準決勝に進出、女子団体は予選で敗退した。

### 初めてのインターハイで

高2 米村 咲南

私たちは、8月3日～5日の3日間、愛知県の西尾市総合体育館で行われた、全国高等学校総合体育大会少林寺拳法競技に岡山県代表として出場しました。初めてのインターハイではどこを見ても上手な選手ばかりで、その緊張感にのみこ

熱心に指導して下さった顧問の先生や先輩にもとても感謝しきれないほど感謝しています。本当にありがとうございました。これからも更なる高みを目指し、文武両道で日々努力していきたいと思えます。

### 第69回岡山県中学校軟式野球選手権大会準優勝「勇往邁進」

中3 兒山 恵和

僕たち中学校野球部は、7月26日～30日に開催された第69回岡山県中学校軟式野球選手権大会に備南西地区代表として出場し、準優勝しました。そして、8月7日～9日に鳥取県で開催された第40回中国中学校軟式野球選手権大会に出場し、ベスト8となりました。

新チームが結成された時からのチームの目標は、夏の県大会優勝でした。そして、モットーは勇往邁進。意味は、目標に向かってひたすら前進するという意味です。僕たちはこの大きな目標に向かって日々練習しました。そして、自分たちでより良いものにしていくことができました。結果は目標にあと一步届きませんでした。が、仲間と共に全力で戦えて本当に良かったです。また、日々支えてくれた家族に

まれてしまいそうになりましたが、自分たちがこまめに頑張ってきたことに自信をもち演武をしました。予選敗退に終わり、悔しい結果でしたが、全国レベルの選手と最高の舞台に立って戦うことができて本当に良かったです。それと同時に、自分の無力さを痛感した大会になりました。全国レベルの選手と対等に戦うためには、まだまだ練習しなければならぬと思わされました。



高2の私にとってはあと1年、中1から少林寺拳法を5年続けてきて最後の1年、来年のインターハイ予選で結果を残してもう一度同じ舞台に立つために本気で頑張ります。指導してくれたり相談のってくれたりしていた高3の先輩がこのインターハイをもって引退してしまい、正直なところ不安もありますが、これからは少林寺拳法部王将としてもっと成長したいです。

## 同級生は実におもしろい。 二人の四十歳のある決断。

一般社団法人高梁川プレゼンターレ 代表理事 坂ノ上博史(高48回)  
医師 寺島 万成(高48回)

1995年1月、学園の高校2年生だった二人は、阪神淡路大震災の光景を、テレビで見ていた。高校卒業後の人生を考え始めていたころだ。先輩で被災した方もいたと聞いた。坂ノ上は、当時、生徒会長。文化祭のクラス発表では、ピカソの大作「ゲルニカ」を実物大で再現した。また他校の生徒との討論会も企画した。新しい取組みに人を巻き込むのが楽しかった。一方、寺島は、生徒会長を補佐する事務局員。卒業から数えて22年目の対談の場を呼び掛けたのは坂ノ上で、卒業アルバムを持参したのは寺島の方だった。

2018年の夏、災害がないと信じられていた岡山県を豪雨が襲った。多くの人々がそれぞれの道を選び、進み始めた年と

なった。寺島の「ある決断」が気になっていた坂ノ上の呼びかけで、11月5日の夕刻、総社市内にて対談することとなった。

高校生活では、多くの時間をともにした。同じ倉敷駅からの電車通学、生徒会、寄り道したラーメン店……。学園を卒業し、坂ノ上は大学生となって、上京した。寺島は、一年間の浪人生活を経て、名古屋の大学に進み、後に医師免許を取ることになる。

坂ノ上は東京で、まだ先駆けのNPO法人で活動し、インターネットバブルのころには、ITベンチャーの世界にも身を置いた。新しい時代のあり方を自ら企画し、世の中に表現する仕事に取り組んできた。そんな坂ノ上から見れば、寺島は着実に歩みを重ね、そして成功を収める人間だと思っ

ていた。その寺島が枠を外れた決断をした。「医院を閉めることにした」と聞き、坂ノ上は大変驚いた。「高校時代の寺島」ではなくなったとさえ思った。

40年前、寺島の出身地・総社に「寺島耳鼻咽喉科医院」は開院した。祖父が始めた頃、まだこの辺りには耳鼻科がなかった。開院後すぐに父が継いだ。地域に愛されるこの医院に、2010年寺島は医師として戻ってきた。一般的に開業医と言えば、花形。最終目的地と言ってもいい。寺島は地域で三代続いた開業医の立場を今年八月末で捨てた。

寺島には考えがあった。父と医院を続け、そしてそれを引き継ぐ選択肢もあった。名古屋から総社に戻って8年、父の隣で「若先生」と呼ばれ、患者さんに向き合ってきた。同時に、父が老いていく姿も目の当たりにした。「耳鼻科の医師は、口で説明するだけでなく、手を動かすことができない。75歳を迎えた父は、元気なうちに引退したい、と日頃言っており、自分もそうさせてあげたかった」と寺島は言う。父の診てきた患者さんたち、医院のスタッフ、老朽化し始めた医院。それらを背負い切れるのかという不安もあった。早朝診療を行う寺島耳鼻



写真右 寺島万成さん、左 坂ノ上博史さん

科は、朝から夜までフル稼働だった。親に何かあった時、思うような対応ができるのだろうか。慌てるくらいなら今、準備をしておこう。患者さん、スタッフには迷惑をかけてしまうが、父母を大切にしながら、働き方をシンプルにし、動きやすい生き方を選んだ。

医院を閉める決断をした6月以降、寺島は、自院の目と鼻の先にある、24時間体制で訪問診療を行っている「あさのクリニック」に出向き、クリニックのみなさんと対話を重ねた。被災地・真備町にも、ともに出かけた。今まで気付かなかったことがたくさんあった。訪問診療の重要性、地域医療のあり方を改めて考えさせられた。開業医でなくても、耳鼻科医でなくてもいい、地域の医療に関わりたい。そう思うようになった。今回の対談も、寺島の希望で「あさのクリニック」に場を借りて行われた。

対談を終え、寺島の決断は、奇をてらうことなく誠実に向き合った結果だとわかった。寺島は「高校時代の寺島」と同じだったと思ひ、坂ノ上は嬉しかった。同時に、枠を広げ、人間的に大きくなった寺島を誇らしくさえ思えた。なにより、「地域」のことを大切にしている姿は、二人に共通する。

坂ノ上は東日本大震災以降、倉敷・高梁川流域のまちづくりに取り組み、一般社団法人高梁川プレゼンターレを設立した。地域に密着した活動を行うなか、真備町の被災に際しては、日本初となるトレーラーハウスでの仮設住宅の建築やコミュニティの支援にも関わるなど、多くの人と連携して活動を継続している。様々なイベントや事業を行う中で、空気を大切に、そして人の心を動かす。その取り組みの姿勢は、所属や所有とは無縁だ。今春、ITを活用した新しい働き方「テレワーク」の拠点を整備するため、美観地区近くにある大正15年築の空き家となっていた町家を購入してリノベーションした。「地域で引き継がれたきた宝物を、次の世代に渡していくために、しばらくの間、預かった」と言う。そして「住吉町の家 分福」と名付け、活用している。坂ノ上自らが実践する、懐かしくて新しい働き方・生き方がここにある。

時代に翻弄されながら、自分と向き合い、家族や地域の人たちを思い、決断し行動する。確実に変化を続けながらも、あの頃の二人がそこにはいた。同級生は実におもしろい。

# やつなみ保護者会のページ

中学体育会く来年の体育会も楽しみ

中2 保護者

秋晴れの中、吹奏楽部の皆さんの素晴らしい演奏からスタートした中学体育会。台風の影響で平日開催となったため、イメージトレーニングだけはばっちりだった保護者参加のムカデ競争も残念ながら(幸い?)中止となり、いつも以上に応援に力がいりました。

どの競技も、力いっぱい頑張っている生徒さんの真剣な姿に心を打たれました。なかでも生徒さんのムカデ競争を見て、息子の入学前に体育会を見学してきた日のことを思い出しました。その日はあいにくの小雨。泥だらけになりながら、しかし笑顔で力をあわせて前に進む皆さんの姿に感銘をうけ、この学校にお世話になりたいと決意を新たにしました。それから2年。今は保護者として体育会を拝見できる幸せを感じました。

また体育会名物の応援合戦も各チーム

来ました。

また、友愛セール当日には、レジ係を担当させていただきました。その日は肌寒い日で、お釣りをお渡しするときに、私の冷たい指先がお客様の手に触れてしまう事が何度かありました。その度に心の中で「すみません……」と思っていたところ、マッサージをお仕事とされているというお客様が、冷たい私の手を取り、手の温まるツボを優しくマッサージしてくださいました。また、手足を手軽に温める方法も教えていただきました。短時間ではありましたが、手も心もほっこり温まる経験をさせていただきました。

こうした一期一会の出逢いがあるのも、手作り会や友愛セールのお手伝いをさせていただいた賜物だと思っています。

保護者の皆様におかれましては、是非今後の手作り会に足を運んでいただき、保護者の方々との出逢い、触れ合い、温かな繋がりを感じていただけたらと思っております。

## やつなみ保護者会研修旅行

教養部

保護者

11月7日(水)、晴天のもと、金光校

のマスケットも力作ぞろいで、放課後残って練習、作製した賜物だと思つと感動もひとしおでした。

最後になりましたが、生徒たちのご指導、テント張り等準備を一手に引き受けてくださった先生方、ご尽力くださいましたPTAの皆様、本当にありがとうございます。来年度の体育会も楽しみにしております。

## 高校体育会

〓日頃の教育の成果を感じる一日〓

高1・2 保護者

今年度の体育会はほつま祭の翌々日という日程でした。準備期間も短く、それに加えて台風の影響を考えると、例年以上の忙しさで当日を迎えられたことと思います。

高校の体育会は平日開催にもかかわらず、爽やかな青空の下、沢山の保護者の応援もありました。当日は生徒会長のお誕生日ということもあり、みんなでハッピーバースデーを歌うサブライズからはじまりに学園の温かい雰囲気を感じました。

障害物競争や大玉運び等、毎年この

長先生をはじめ、やつなみ保護者会役員と友愛セール・模擬店にご協力頂いた保護者の皆様43名を乗せた新車のバスは、予定より8分遅れで学園を出発し神戸をめぐりました。

2時間半のバスの旅は、おもしろおかしいユニークな添乗員さんのお陰であったという間に神戸ハーバーランドに到着！そこではショッピングや散策をして楽しみ、ランチバイキングに備えました。いよいよオリエンタルホテルからルミナス神戸2に乗船!! デイライトの大阪湾・明石海峡大橋を一望できるクルーズの始まりです。美しい内装・充実した設備の豪華客船で心を癒やすお洒落なひとときを過ごす事が出来ました。

海から眺める景観はとても新鮮で心地よい刺激を与えてくれ、上質な時間と空間の中ステキバイキングを堪能しました。

そこからバスで移動し「人と防災未来センター」に到着。添乗員さんの配慮で予約時間より30分早めに見学開始!!! 人と防災未来センターは、阪神・淡路大震災の経験と教訓を後世に伝え、防災・減災の大切さを発信する防災学習施設で

ですが応援にも力が入ります。部活動リレーでは今年も見事なパフォーマンスを見せてもらいました。30人31脚での2年生のチームワークの良さには圧倒され保護者席も大盛り上がりでした。学園生が心一つに、ひとつひとつの競技に取り組み姿勢には感動しました。また、優勝したチームに祝福の拍手をしている姿が爽やかだったのがひととき印象的でした。閉会式後、それぞれのチームに分かれての記念撮影ではみんなの笑顔がキラキラ輝いてとても印象的でした。その後は勝ったクラスも負けたクラスも一緒に片付けをしている姿をみて、日頃の教育の成果を感じる一日でした。

## 温かな繋がりが

高1 保護者

今年度、微力ではありますが庶務部に属させていただいております。

ほつま祭友愛セールに向けて、三役さんのお力を身近に感じ、さらに庶務部の部長さん、副部長さんの温かいお人柄と笑顔に触れ、パワーをいただきながら、保護者の方々の繋がりを感ずる手作り会に楽しく参加させていただくことが出

す。館内では、阪神・淡路大震災の瞬間の再現映像上映や被災者から提供された実物の震災資料が展示されています。また、わずかな十数秒の揺れで起こった地震破壊の凄まじさを体感し、地

鳴りなど臨場感あふれるものでした。

日本は、地震が多い国です。沢山の地震や水害が日本各地を襲っています。今後の災害にどのように備えるのかを考えるきっかけとなるでしょう。是非、ご家族で出かけて欲しいスポットでした。

最後に、予定通り無事に研修旅行を終える事が出来たのも皆様のご協力のお陰だと感謝いたします。

又、お世話頂いた佐藤副校長先生には、御礼申し上げます。



## 「皆の熱き想いを寄せるもの、ほつま祭」

本年も9月8、9日と、ほつま祭が開催された。保護者会主催の友愛セールも生憎の雨模様の中、例年通りの多くの来場者を得て、大成功裏に終わられた。本セールは、過去の反省を活かし改善され続けている。今年も三役、役員方のご意見を反映した新たな試みや、改善点を振り返り列記したいと思う。まず運営面  
①子供専用売場の開設。子供達は担当行事で忙しく記念講堂まで買い物に行けないとの声を聞き、オーバードリッジ付近に子供専用売り場を設けた。子供達の動線上にできたこの店は、大人気となり即完売御礼。②インスタによる手作り品事前紹介。SNSの利用により、お母様方の御心こもった品々を事前に紹介でき、お陰様で手作り品は最後まで値下げせずに完売。これも新時代の手法として効果絶大。③体育館下にカフェ新設。買い物でお疲れの皆様に一服のスペースを提供し、飲み物、カキ氷を販売した。雨でカキ氷の売上は伸び悩んだが、利用率は高く特に高齢者には喜ばれた。④入浴剤の手作りワークショップ出店。単なる販売ではなく、体験型の店として楽しんで頂いた。⑤予約販売の引渡し。初日、2日目の担当者変更をせず、事前説明も徹底し、今年は誤納品ゼロ。後の商品交換の手間が省け大感謝！⑥男子役員増員の増員。今年より4人と

## 「2018年友愛セール」ご協力の御礼

なり、更に経験豊かな平松前会長の助けも得て大助かり。前会長ありがとうございました。①ミニチュア制服の新発売10セット。あつという商品面では、来年は更に増産計画中。②生徒デザインによるマスキングテープ。更に愛着のある金光オリシナルグッズとなる。③予約販売の多品種化。豆菓子、新種フーメン等の投入により売上増。そして例年に続き、アサムラサキ様から多数の商品を頂き、チャリティー活動を実施できた。西日本豪雨災害支援の一助となれた事も良き成果となった。こうして、毎年盛大に開催される「ほつま祭」。本稿の執筆日は、折しも創立124年記念式の日。ここに、また新たなマイルストーンが築かれた。私も列席させて頂き、本学園に脈々と流れる歴史と伝統を改めて肌で感じた。時代は変われど、建学の精神は変わらない。生徒、卒業生、保護者、保護者OB、先生方、サークルの皆様、そして地域と支援企業。建学の精神に寄り沿う皆の熱き想いを象徴するものが、この「ほつま祭」だと思ふ。この祭は過去と現在を引き合わせ、そして本学園の明日の礎をも創る役目を担う。私も我が子の卒業後も、保護者OBとして微力ながら本学園の発展に寄与したい。本年のほつま祭にご尽力頂いた全ての皆様に、本紙面をお借りし衷心より感謝、御礼を申し上げます。ありがとうございました。

やつなみ保護者会会長 横藤田 晋

## 会報

**やつなみ保護者会地区会** 7月を中心に24の地区で地区会開催を予定したが、西日本豪雨災害の影響で、6つの地区で開催を中止した。開催された地区の平均出席率は46パーセントであった。また、止宿の保護者の方にはアンケートでご意見をいただいた。地区会でいただいたご意見は、冊子にまとめて、全役員会で配布され、学校では今後の指導に活かされる。**オープンスクール手伝い** 7月29日に予定されたオープンスクールは、台風接近のため、8月26日に延期して実施された。三役と各部長他、12名の役員がお手伝いをし、例年のお茶、お水の配布に加え、新たにかき氷を配布し好評であった。**第3回評議員会** 8月29日開催。会長挨拶の後、各別協議と各部より報告。研修・出張の報告等がされた。**第2回全役員会** 8月29日評議員会の後引き続き開催された。開会に先立って、この夏休み中にご逝去された3名の会員のご冥福をお祈りし、黙祷を捧げた。(お名前は別項参照) 会長・校長の挨拶、学校近況報告の後、協議報告事項に移っ

た。指導部からは、地区会の報告、街頭・列車補導について、庶務部からは、友愛セール、大祭湯茶接待について、教養部からは、研修旅行と教養シリーズ発刊について、それぞれ報告と協議がなされた。また、友愛セールについての打ち合わせを行った。

**友愛セール** 9月8日には準備、9日にはほつま祭での友愛セールを、全役員が一丸となって取り組んだ。近年遊休品の収集が難しく、一学期から夏休みをかけた、手作り会を開催し、手作り作品を多く販売した。企業協賛には46社のご協力があった。また、高3保護者有志による模擬店も好評であった。

**金光教大祭湯茶接待** 9月30日、10月7・10日の3日間に行われた、生神金光大神大祭に延べ33名の役員が奉仕した。また、12月9日に行われた、布教功労者報徳祭に9名の役員が奉仕した。いずれも全国の参拝者の方々に湯茶の接待をして大変感謝された。

**やつなみ保護者会研修旅行** 11月7日役員、ほつま祭の友愛セール・模擬店お手伝いの方を含め43名が参加した。神戸モザイク付近での自由行動の後、昼食はルミナス神戸2ランチクルーズで神戸湾

の景観を楽しみつつランチバイキングで舌鼓。その後、人と防災未来センターで研修。バスの中でも終始和やかに親睦を深めた一日でした。(やつなみ保護者会のページ参照)

**第四回評議員会** 11月30日開催 2学期の主な行事(友愛セール・研修旅行・研修会・補導活動等)の報告及び反省が行われた。友愛セールの中間決算報告がなされた。

### 諸会合

- 8月20・21日 全国高P連佐賀大会
- 横藤田会長、難波・丸本副会長3名参加
- 9月27日 幼小中P指導者備南地区研修会。加賀・宮口・五島・田中評議員参加。
- 10月8日 玉島警察署管内子供を守る母の会地域安全パトロール出発式 中山・瀬崎評議員参加。
- 10月22日 県私学秋季研修会 定平・佐藤副会長、亀山・三原監事、柗屋・片山評議員、他教師4名参加。
- 11月6日 県高P連指導者研修会 佐藤副会長、柗屋評議員、佐藤副校長参加。
- 11月7日 備西地区高P連秋季総会 金光校長出席
- 11月20日 浅口里庄P連母親委員会研修会 佐藤副会長・三原監事出席

文の授業で、10グループに分かれて、自己紹介をしました。知っている英語を最大限に使って、奮闘している姿がとても微笑ましかったです。メインは漢詩の読み方。教材は中国では小学校で習う漢詩で、全員知っているものでした。まず日本の漢文の読み方を教えて発表し、次に中国語の読み方を教えてもらって発表しました。全員で声をそろえて、大きな声で読めました。実際に押韻を感じるなど、普段はなかなかできない授業に満足そうでした。

6限は中学3年生との交流会。5クラスに分かれて、最初に中国紹介のプレゼンテーションをしてもらいました。きれいな写真をスライドで紹介しながら、英語で学校や南寧市について発表してくれました。その後、各クラスで工夫を凝らした交流会。折り紙やかかるた、福笑い、けん玉などの日本の遊びをはじめ、いす取りゲームをしているクラスもあり、楽しいひとときを過ごしました。

6限後は、訪日団の重要なプログラムである、記念植樹。訪問団の皆さんと、本校校長、副校長、教頭、中高生徒会長、中3生徒会事務局長、国際交流クラブ有

志の出席のもと、校門横で行われました。日中友好会館の緒方さんから、「日中植林・植樹国際連帯事業」の説明をしていただき、訪日団の何榮（かえい）団長からのご挨拶に続いて、3校の生徒代表が桜の木（ソメイヨシノ）と記念プレートに土をかけました。最後に、金光校長から「これからも永く続く日中友好の証として、大切に育てていきたい」と挨拶し、無事に植樹式を終えました。

放課後は、ラグビー・卓球・柔道・少林寺拳法・ソフトテニス・書道・茶道の7つに分かれての部活動体験。30分程度



の体験でしたが、どの部も部員の皆さんが温かく受け入れて、手取り足取り日本の部活動を教えてあげていました。日本の部活動を体験した中国の高校生は、とても喜んでいました。

16時30分からの送別式では、音楽部吹奏楽団のミニ演奏会、中国高校生の踊りと歌の披露に続き、記念品の交換を行いました。学園からは「金光ペア」と「鳥瞰図」を贈りました。

学園滞在6時間ほどのプログラムでしたが、訪日団の皆さんは大変喜び、満足してくださいました。バス出発後、私たちが見えなくなるまで、手を振ってくれました。いずれも全校生徒4千人の学校で、その代表15名ずつが日本を訪問し、私たちと交流したわけですが、日中友好の架け橋になったと思います。その先頭に立って交流してくれた学園生の皆さん、ありがとうございました。

《感想》  
とても楽しく交流することができました。同じ詩でも中国語バージョンと日本語バージョンで全く違うことに驚きまわりました。そして本物の読み方を聞くことができ、さらに興味を深めることができ、



## 国際化教育推進委員会

### 『国際交流の秋』今年も素晴らしい交流ができました!!

#### 「日中植林・植樹国際連帯事業」中国高校生訪日団 10月19日(金)来校

#### 授業やクラス交流会、 部活動体験を通じて交流 校門横に桜の木を植樹、 日中友好の証に!!

10月19日(金)に、中国・広西チワン族自治区にある南寧市第二中学と南寧市武鳴区武鳴高級中学から高校生30名と引率4名、お世話になる日中友好会館の皆様3名をお迎えしました。

10時過ぎ、真新しい制服を着た2校の生徒と先生方が、これから始まる交流に期待している表情でバスから降りて来られました。正面玄関の歓迎横断幕を見つけると、皆さん大変喜んでくださいました。

最初のプログラムは、高校1年5・6組の皆さんとの英語授業。Ben先生指導のもと、15グループに分かれて自己紹介をした後、Global Warmingをテーマにグループで相談をしながらTrue / False Quiz。中国高校生とは英語でコミュニケーションをとって、一緒に答え

を考えました。正解発表では、お互いに拍手をしたり、悔しがったりと、すっかり打ち解けた様子で授業を楽しんでいました。

また、Personalityをテーマに、お互いに話をしたり、手作りの英語ずりろくを楽しんだりしました。

昼休みは、国際交流クラブ主催の昼食交流会。学園生と中国の生徒が混ざったグループに分かれて、話しながら昼食を食べました。中国では、一人っ子政策が続いたため、来校した高校生も基本は一人っ子だそうです。中学生が入ってくる、立ち上がり笑顔で手招きをしてテーブルに誘ってくれ、優しく語りかけてくれる姿が印象的でした。

5限は、高校1年2組の皆さんとの漢





貴重な体験をすることができたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

♪性格がよかった。世間のイメージとは違い、日本人と友好的だった。意外としゃべることがあり日本の文化やアニメなどのサブカルチャーも分かったので、話していて楽しかった。次の機会があったら、自分の言葉で伝わらないこともあったので、伝わるようにしたい。

♪国は違っても、お互いに身ぶり手ぶりや英語で何となくだけと伝えることができました。お互いに一つの詩の読み方を教えあって、仲を深めることができました。正直中国人に対してあまり良い印象を持っていなかったけど、実際に話したことで180度印象が変わり、良い人もいるんだなということが分かりました。

♪とにかく英語力がすごく、圧倒されました。自分もまだまだ英語を勉強して、話せるレベルまでになりたいなと思いました。スラスラ英語をしゃべる中国の留学生の方々に聞近にして、かっこいいと思ひ、尊敬しました。これからの勉強の励みになりました。

♪前にも韓国の留学生と交流しましたが、みんなとても積極的にな話をしている、と

でもすごいと思いました。今回は中国の留学生でしたが、話をしていくうちに中国という国に好印象を受けました。政治の上では少しもめている部分もありますが、それとは別に、もっと中国の人々と交流して、関係を深めていくべきだと思います。

♪私は中国の留学生と、英語の授業交流と昼食交流をしました。初めは全く話せなかったけれど、授業の最後の方になると、学校のことをたくさん聞いてくれて、教えてあげたり、逆に教えてもらったりしました。この中国の学校は全寮制で、毎日放課後1時間部活をした後、3〜4時間勉強しなくてはいけなくて聞いたとき、すごく勉強していて驚きました。すごろくをしようとついても盛り上がりました。またこのような交流があれば、ぜひしたいです！

♪母国語でもない英語を完璧に話している、とてもすごいと感じた。相手の中国人の方が一生懸命自分たちの言いたいことを理解しようとしてくれたおかげで、スムーズにコミュニケーションができたと思う。一緒にクイズやすごろくなどのゲームをしてみても、本当に盛り上がりつつ、

とても楽しく良い交流ができたと感じた。

♪あまり言葉は通じず(私の英語が弱い)、話せはしなかったが、昼食交流で女の子とメールアドレスを交換し、パンダのしおりをもらって、とても嬉しかった。記念植樹にも事務局員として立ち会えてよかった。

♪自分の伝えたいことが英語で伝わったとき、相手の英語が理解できたとき、すごく嬉しい気持ちになりました。英語での会話を楽しめるようになっていきたいと思います。

♪いすとりゲームをしたとき、音楽をリコーダーで吹いたら、相手はリコーダーのことやほかの日本の文化などを聞かれたので、日本の文化などが気になるんだなあと感じた。ニュースでしか聞かない中国という国のイメージがとても良くなった。

♪あまり上手に英語が話せなくても、相手が熱心に自分に何を言いたいのかを理解しようとしてくれるところが嬉しかった。英語を上手に話せている人を見て、かっこいいと思った。自分もああいふ風になりたいので、もっと勉強して、今度は自分が世界へ情報を発信しに行きたい。

## 「EUがあなたの学校にやってくる2018」 11月15日(木)

**ヴェルナー・ケーラー ドイツ  
連邦共和国総領事をお迎えして  
II講演会と「ケーラー総領事を囲む会」  
で、EUとドイツについて学ぶII**



今年も「EUがあなたの学校にやってくる」に「当選」し、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館から、ヴェルナー・ケーラー総領事と通訳の宮脇恵子さんをお迎えし、EUについて学習しました。

11月15日(木) 11時過ぎ、大阪の総領事館から公用車で金光学園に到着し、さっそくと車から降り立ったケーラー総領事は、出迎えた横山教頭先生と笑顔で握手をし、挨拶を交わしました。校長室にご案内し、しばらく校長先生とやり取りをしましたが、総領事は通訳も必要ないほど、日本語を上手に話されたので、

大変驚きました。

まず4限は、高校2年全クラスと1年5・6組の生徒を対象に、講演をしてくださいました。EUについての基礎知識や日本とEUの関係、ドイツについて、最初は英語で、次に日本語で、最後はドイツ語で宮脇さんの通訳を介して、50分間熱く語ってくださいました。机がなかったにもかかわらず、熱心にメモを取る生徒が多く、感心しました。

昼休みには、国際交流クラブのメンバーと希望者約20名で「ヴェルナー・ケーラー総領事を囲む会」を開き、参加生徒からの途切れることのない、積極的な質問に丁寧な答えてくださいました。難民の受け入れや世界平和のために私たちができることについてなど、難しい内容の質問もあり、ケーラー総領事も大変感心しておられました。お弁当を食べながら、30分程度の短い時間でしたが、大変貴重で有意義な時間を持つことができました。

ケーラー総領事と宮脇さんには、5限

の時間帯に昼食をとっていただき、14時過ぎに、金光学園を後にされました。改めて、熱心に講演を聞いてくれた生徒や、囲む会で積極的に質問してくれた生徒に感心する言葉を述べられて、帰られました。「EUがあなたの学校にやってくる」は、金光学園で4年連続5回目の開催となりました。EU諸国の外交官の方のお話を直接聞けるのは、大変貴重な経験で、それを毎年開催できるのは大変ありがたいと思います。将来金光学園から多くの人がグローバル人材として活躍できるように、いろいろな機会をとらえて、成長していきましょう。

### 《感想》

♪日本は島国なので、EUが掲げている「国境のない暮らし」というものを考える機会が今まであまりなかった。EUは対立ではなく協力によって成り立っており、現代社会において大切な国際化で重要な役割を担っていることが分かった。言語や文化の多様性がある中で、統合がされているのは不思議で、すごいことだと思った。また、難民や貧困問題への取り組みで、多くの人たちを救っているということを知り、国同士の協力があるか

や戦争問題にも取り組んでいて、とても良い連合なのに、なぜイギリスは離脱を考えたのか。高校生の私たちが分かりやすいように話してくれて、理解しやすかった。日本と深いつながりがあるのに、それを私は知らなかった。もともと日本の国民はEUのことを知るべきだと思う。スポーツ・学術・芸術・文化でもつながりがあるって、日本とドイツのつながりは深いなと思った。

♪今まで「EU」という言葉は何度も聞いていたが、「EUとは何か」ということについてはほとんど知らなかったのですが、今回の講演でEUについて知れた。私は難民問題に興味があり、ヨーロッパは難民受け入れが活発なイメージがあったので、ケラーさんからいろいろと聞くことができて本当に良かった。改めて難民問題の解決の難しさ、日本と海外の国々の考え方や価値観の違いに触れることができた。また、EUは加盟国間だけでなく国連などの機関とも協力し活動していること知り、EUという組織の素晴らしさを感じるとともに、EUで働く人たちがうらやましかった。

♪EUは多国間の相互補助を目的として

らこそできることだと思った。

♪加盟国がたくさんあり面積が日本の約11倍と、すごく大きくてびっくりしました。国の人のことを考えた加盟の条件で、素敵だと思いました。対立ではなく協力、国境のない暮らしという目標は素晴らしいと思います。素敵な言葉だなと思います。こういう共同体は、戦争が関わったり、成り立っているんだなと思いました。数年で大規模に発展していったことを知りました。加盟国同士はパスポートなしで行けることに驚きました。

♪前回とは少し違う内容で、EUを理解することができた。ケラー総領事の日本語がすごく上手でびっくりした。世界中どの国も同じような問題を抱えているのだから、もつとEUのような、EUよりも大きな組織を作って、国連だけではできないようなことをやっていけたらいいのではと考える。どこかの国だけでやっていこうとしても限界があるのだから、EUという組織の存在はとても大きなものだと思う。アジア諸国でもこのような組織を作ることができたら、もつとたくさん問題を解決できるのではないだろうか。

設立された。第二次世界大戦の反省が、その後のEUの発展、人権保護、発展途上国への経済援助に行かされているのだらうと思った。戦勝国と敗戦国間で対等な関係が敷かれていることに、ヨーロッパの人々の平和に対する思い、他者への思いやりが感じられた。グローバルな社会で求められる多様性を持つて人と接するためにも、今後EUのみならず多くの国の多くの人種の人と関わってみたい。

♪EUが世界の国々と協力していることを初めて知った。また、日本とEUも異なる意見や考えはあれど、共通の価値観を持つており、今年にも重要な2つの協定を結んだことも初めて知った。人権問題や環境問題、移民・難民など、様々な問題に目を向けて改善しようとしていることは、本当に素晴らしいことだと思つた。イギリスのEU脱却のことについては、脱退した後もイギリスとEUの諸国がパートナーであるようにするのはとても大変そうだと感じた。日本とドイツの交流が盛んなのも初めて知った。もし、これから機会があれば、ドイツとの交流のイベントに参加してみたいなと思つた。

♪EUに所属している国とスイスとノルウェーはパスポートなしで移動できることが分かり、とても良いと思いました。目標の一つである「国境のない暮らし」というのができ始めていると思いました。イギリスがEUを脱退した後も、パートナーとして付き合っていくという考えが素晴らしいと思います。関税の撤廃が早く進み、物が安くなるとう嬉しいです。貴重なお話をありがとうございました。

♪EUは二度と戦争が起きないようにするためにできたものだけれども、最近自国保護主義が多くの国で見られるようになったので、イギリスのEU脱退が起きたのではないかと感じた。難民問題などもヨーロッパでは重大な問題とされており、この問題から逃げようとする国が増えると、また戦争が起きてしまうのではないかと思つました。ドイツと日本との関係がもつと良くなつて、交流が増えたらうれしいなと思つました。

♪EUは私が思つていた以上に便利で安心なんだと知ることができた。例えば、通貨などで貿易や物の流通が大幅に可能になり、EU加盟国同士の国境がなくなりビザやパスポートが不要になるなど、



グローバル化が進んだ。これだけを見ると、ただEU加盟国の景気が良くなっただけのように見えるが、そのおかげで難民問題や環境問題にまで目を向ける余裕につながるのだと知ることができた。私はいっひつこの国のことも大切だが、もつと世界を見渡し、各国とのつながりもより大切であり、それにより生まれるものもとても大きく、これからの日本にもとても重要なんだと気づくことができた。

♪EUが果たす役割は、欧州だけに関わることでなく、環境保護などの取り組みをしているというのを知つて、世界全体にかかわる重要な機関なのだと感じました。そして、難民問題はヨーロッパ内でもたくさんあり、EUはそれに対して援助を行っていることを知りました。どうすれば、非正規難民を公正に救えるのかということについて、とても興味を持ち、これからの課題であると感じ、解決策を考えていきたいと思います。また、総領事館の役割も知ることができました。日本とドイツが友好な関係を保つためにも、ドイツのことをもつと知りたいなと思つました。

♪EUは平和・繁栄を目指し、難民問題

## ■ オリンピック選手村

中3 関藤 圭悟

以前学校で、長谷工コーポレーションの社長さんの講演を聞き、今回実際に長谷工コーポレーションが担当する工事現場の事務所に行きました。職人の方々の仕事の内容や、実際に現場で使う道具、熱中症対策などいろいろなことを教えてもらいました。ここで知ったことを将来、自分が仕事をするときに役に立たせたいと思います。

中3 岡邊こむぎ

4年に一度の世界から注目を集めるオリンピック。世界中の選手、オリンピックの観覧者の人たちの安全はもちろん、来てよかつたと思ってもらえるように努力する多くの人を見てきました。競技場や宿泊地など、オリンピック・パラリンピックの時、そしてその後の建物の使用予定など、とても細かいことが決

められ実行されていました。

## ■ 東京大学研修

中3 関藤 圭悟

普段の生活でテレビや本、ニュースなどで日本一頭の良い難関校として東京大学を知っていましたが、勉強ばかりして、遊ばなかったり、友好関係がないイメージがありました。しかし、今回の研修で、勉強はもちろん、スポーツをしたり、外国人生徒と仲良く話したり、積極的に様々な活動をしたりと、自分のイメージで学校を決めるのではなく、実際にオープンスクールなどに参加してみることが重要だと思いました。

中3 岡邊こむぎ

英語だけを使ってワークショップをすることに決め、本当にできるかどうか心配でした。TAの人は、中国出身の留学生の方でした。とてもやさしくて、私たち



東京大学駒場キャンパス

に分かるようにゆっくり、分かりやすく話してくれました。途中、お菓子を買ってくれたり、ダンスを踊ってみたりと、緊張していた私たちを和ませてくれました。初対面だった高校の先輩2人もとても親切にしてくださいました。だんだん自分から英語で、もっと話しかけてみたいと思うようになりました。授業を受けて、ノートを書きとるだけでなく、実際に英語を使う経験をもっとしていきたいです。

つけていくべきだと感じた。

## ■ 研修全体を通して

高1 廣岡 佑紀

僕たちは普段、岡山県や広島県という地方の田舎に住んでいるので、東京というと全く違う暮らしたと思います。地下鉄のラッシュや、街中の人の多さなど、貴重な体験をすることができました。また、選手村の建設現場の事務所では、多くの職種の方からの話を聞いて、いろいろな仕事があるし、その人たちのおかげで豊かで安全な生活ができるのだと思います。



東京大学駒場キャンパス



東京駅

ちゃんと理解できるしようにしてくれたおかげでたくさんのごとについて話すことができた。

明治維新以降の歴史について、留学生の出身国のインドの歴史について理解するのがとても大変でした。しかし、英語だけでなく世界の事について知ることができてとても楽しかったです。また、英語を学ぶことの大切さを知ることができました。

高1 高村 廉

最初、僕はそんなに英語が得意ではなく、留学生との交流が不安だった。交流が始まってからもその不安があつて、すごく緊張していた。僕より年下の中学生が積極的に話しかけているのを見て、自分もそうならなくちゃという気持ちが強くなつて、少し緊張はなくなつていった。積極的に話しかけると、どんどん話してくれて、すごく嬉しかった。ディスカッションでは、今日初めて話す人もいたが、自分の意見もしっかりと言えて楽しかった。もっと自分の英語力と自信を

僕たちは普段、岡山県や広島県という地方の田舎に住んでいるので、東京というと全く違う暮らしたと思います。地下鉄のラッシュや、街中の人の多さなど、貴重な体験をすることができました。また、選手村の建設現場の事務所では、多くの職種の方からの話を聞いて、いろいろな仕事があるし、その人たちのおかげで豊かで安全な生活ができるのだと思います。



ドイツ大使館にて

高2 久本 勢土

今まで学校の企画で何度か外国人と話すことはあつたが、英語を本気で勉強しだしてからは初めての経験だった。発音のせいで、相手に分かってもらえなかつたり、リスニング力の不足で聞き取れなかつたりと課題は多かつたが、以前より格段に意思疎通ができるようになっていた。この研修を通して、英語へのモチベーションをあげるきっかけとなる経験をする事ができた。

高2 丸野可奈恵

最初は留学生の人とちゃんと会話ができるのか不安でした。でも、やさしく

# ほつま祭

全てが自分の成長につながった

中1 3組 佐藤 祐人

ほつま祭前夜、僕はほつま祭が楽しかった。当日の朝は、明るく学校へ出発した。

1日目は、他のクラスや先輩たちの展示を見に行った。展示されている模造紙の内容はわかりやすく、興味を引くものがあった。知らなかったことがたくさんあって、面白かった。

準備期間には自分も模造紙を書いた。書くとなった時は、あまり気が進まなかったが、自分の得意な絵で内容



に千羽折ることができた。

このほつま祭はあいにくの雨で、例年とは違ったものだった。それでも各クラスが団結し、頑張ったおかげで、とても良いものになったと思う。いつもとは違った事態の時は、団結力を見せる絶好の機会だと思う。このことを次の体育会でも發揮していきたい。



をわかりやすく表現してみた。新聞工作の課題も得意ではなかったが、自分にもできそうなものを探して、作り始めた。



展示という取り組みには、僕の苦手な課題がたくさんあったが、人と違ってもいいから、自分なりのやり方を見つければ、やりきることができると思った。たくさんの人に見てもらえるようなものに仕上げることができた。

2日目は、自分の仕事があった。担当するのは模造紙の説明。来たお客さんに積極的に声をかけることができた。説明を聞いたお客さんは「分かりやすい説明ですね」と言ってくれて、嬉しかった。ほつま祭成功への道は、協力して作ること。疲れたこと、うまくできなかった

ほつま祭

は、個々の能力を生かしながら一つのものを作り上げていくものだと思う。それは、クラスの人の知らない一面を見つけれれる機会でもあるし、喜びを分かち合うことができる最高の機会だ。このほつま祭で、より一層団結力が高められたと思う。ほつま祭で得た団結力と友達との絆を糧に、体育会からゆずり葉まで最高のクラスで最高の仲間と共に、最高の思い出をつくりたい。



監督の一言で一つになれた

中3 5組 難波 日奈子

9月8日と9日にほつま祭があった。私のクラスは演劇で参加した。私はシナリオ委員になった。みんなで話し合い、

こと、助け合ったことなど、いろんなことがあったが、それらは自分の成長につながった。みんなで取り組んだ結果、中1の中で1位になった。成功して嬉しかった。

道はまだ続いている。僕は見学している中で、それぞれの工夫を見つけることができた。これを来年のほつま祭に生かしながら、来年ももっと楽しみ、もっと良いものにしていきたい。

最高のほつま祭

中2 5組 藤井 一鷹

僕達2年5組は「2525展示 紙の秘密を紙ングアウト」という、紙の展示をした。僕は初めての展示だったので、緊張したが、1位になって光栄だった。

模造紙は壁新聞の技術を生かして作った。特に色遣いには気を配り、目立ち、目に入るようにした。訪問者からも好評だったようで、胸をなでおろした。

また、社会貢献で千羽鶴を作るというプロジェクトのチーフにもなった。初日の午前は客足も少なく、本当に千羽折れるのかと心配だった。それでも仲間達の呼びかけなどにより、客足が増え、本当

脚本は「Time limit」に決定した。これは命について考える物語だ。キャスト決めの際、私は木内芽衣を演じることにした。最初の頃は恥ずかしさがあった。また、セリフを覚えるのも大変だったし、そういう風に感情を込めればよいのかも分からなかった。でも、みんなで練習していくうちに、だんだんと一つの物語になっていった。それがとても嬉しかった。でも、毎日練習していると疲れてくるし、飽きてくる。最初は頑張っていた練習も、途中、少しだらけてしまった。みんな話合い、「このままで負けたらとても悔しいし、本気でやろう！」となった。そこから、どんどん劇のレベルが上がっていった。

本番当日、私はすごく緊張していた。頭が真っ白になって、





セリフがとんでしまうのが怖かった。しかも、実際に舞台上立つと、幕の向こうにいる観客の声も聞こえてきて、緊張がより一層高まった。劇の直前にみんなで

円陣を組んだ。「一位とるぞー」という監督の言葉で、みんなの心が一つになった。幕が開いた瞬間、今までみんなで作ってきたすべてを出し切って頑張ろうと思った。終わった後は、無事終わった安心感と、もうみんなが劇をすることがない悲しさがあった。それでも、やり切った感があり、とても達成感を得た。後悔しない劇ができた。こんな気持ちになるなんて思わなかった。本当に3年5組のみんなが「Time Limit」を作れてよかった。心からそう思った。終わった後のみんなの顔はとてもキラキラしていた。今でも忘れられない。いろんな人から良かったと言ってもらい、泣いていた観客もいたと聞いた時は本当に嬉しかった。この劇は、監督、助監督、キャスト、大道具、小道具、音響、照明、5組の36人、誰一人欠けてもできなかった。みんながいるから出来上がった。

結果は2位、準優勝だった。とても悔しかったけど、この悔しさをバネに、クラスの強い団結力で、次の体育会も本気で頑張りたい。そう思える最高のほつま祭になった。

### ほつま祭を終えて

高1 1組 川上 紗加

私は今回のほつま祭で、特に2つのことを頑張った。

1つ目はクラスで取り組んだ展示だ。私たちはフィギュアスケートをテーマに、スケートリンクを作ることにした。最初はどうかやって作るのか想像もつかなかったし、作業も大変だったが、グループのみんなで力を合わせて作ることができた。私たちは、その日にできることを翌日に回してしまいうことがよくあったので、出来るのが遅くなってしまう。これからは、その日にできることはその日のうちに終わらせていこうと思った。

2つ目はコーラス部のステージだ。今回は、2回目となるチアを披露した。チーフの私は人一倍練習も頑張っていたので、リハーサルでもとても緊張していた。でも、本番では、みんな技を失敗することなく笑顔で最後までやり切ることができた。最後の「Go! Shinee!」の掛け合いの後で得た達成感は大きかった。そして、今回のほつま祭では初めてのソロも披露した。どうしてもやってみたかった曲だったので、オーディションに受かっ

た時はとても嬉しかった。今年のほつま祭は得られたことが多く、充実していた。来年はもっとレベルアップできるように頑張りたい。

### 思い出しに残るほつま祭

高2 3組 宮川 靖世

今回のほつま祭は、今までで最も楽しく頑張った、思い出に残るほつま祭だった。その反面、アクシデントも多くあった。

私たちのクラスは、学年一の少人数クラスで、とにかく人手が足りなかった。キャストが決まった後で、野球部員



は試合のために当日参加できないということになり、急遽キャストの変更を余儀なくされた。本当に焦った。野球部員2名の代役は、

馬場君と西谷君が引き受けてくれた。8月20日過ぎの出来事であり、当初は心配したが、今となっては、彼らしさのおかげで良い劇を上演することができたのだと思う。また、少人数のクラスだったからこそ、キャストも照明係も野球部の人たちも、みんなで大道具を手伝うといった協力ができたのだと思う。

何よりも思い出に残っているのは、キャスト5人で練習した時間だ。みんなに役について考え、どのように動いたら「バッグ(擬人化したカバン)」を表現できるのか、あるいは「真美」のようになることができるのか、他のキャストに相談しながらたくさん練習した。練習中、他の人のセリフを補いながら演じることもあった。そのおかげで、自分自身だけでなく、他の人のセリフや劇の流れを覚えることができた。

本番では自分のセリフが一瞬とんでしまったり、背景を出す手順が違ったりと、ハプニングもあったが、観客のみなさんが私たちの劇を観に来てくれていると考えると、そんなハプニングや緊張感も忘れるほど楽しかった。



# 中学 体育会

## 体育会を終えて

1年1組 田邊 玲旺

僕は体育会でサッカー部のみんなと900メートル走を走ることになった。僕は体力がないから、とても不安だった。リハールで試しに走った時には、1周かとの間違って1周目を全力で走ったら、3周だったので体力がもたなくて4位だった。それがとても悔しくて、必死に長距離の練習をした。その不安をかかえたまま体育会当日をむかえた。



いつもより目が覚めるのが早かった。開会式の時の行進はう



## 体育会

1年2組 大村 朋也

10月2日、僕は中学生になって初めての体育会に参加した。

体育会本番に向けて数週間にわたって練習や準備が行われた。各学年の2組が「兄弟学級」としてチームをつくり、ダンスや応援、行進の練習を行った。ダンスの指導は3年生の先輩がしてくださった。僕は、最初はなかなか踊りが覚えられなかったけど、先輩方の熱心な指導で、少しずつ上達していった。応援は、大きな声を出すこと、行進はしっかりリズムよく腕をふることを教わった。

本番当日は台風で少し延期になったけれど、良い天気にも恵まれた。僕は、全員参加の大縄跳びと綱引き、クラス対抗リレー、むかで競争に参加した。

大縄跳びは体育の時間に練習していたけれど、あまりたくさんは跳べなかった。20回以上跳べているクラス



もあつたので、すごいなと感じた。綱引きはみんな頑張つて3位になったのでよかった。僕がこの体育会に参加して感じたことは、準備や練習を引張つてくれた先輩方の大変さと、競技での団結力の大切さだ。僕は2年後は3年生として、1・2年生を引張つていかなければならない。だから3年生に向けて責任感を持つて行動できるように、頑張つて学校生活を送りたいと思う。

## 体育会を終えて

2年1組 川上 真央

僕は、体育会を終えて心に残ったことが3つあります。



1つ目は、長縄で学年1位をとることができたことです。本番前はいつも気持ち合わず、跳べなくて1桁の回数しか飛べなかったけど、最後の本番では、声を掛け合い、団結して飛ぶことができました。いつも3組が1番跳べていましたが、このとき、30回以上跳んで1位になったのでとてもうれしかったです。2つ目は200メートル走で惜しくも2位だったことです。僕はこの競技のために毎晩トレーニングをしたりランニングをしたりして体力づくりをしてきました。本番では、途中までは思いっきり走り1位だったけど、最後、ギリギリで抜かされたので、本当に悔しかったです。3つ目は、応援合戦についてです。僕は練習期間の少しの間、風邪をひいて、傘を使つた演技の部分を練習するこ



とができませんでした。でも、友達やチアの先輩に何度も教えてもらい本番には完璧にすることができました。また、1組は応援合戦で2位をとることができました。

来年は3年生になって、みんなをまとめていく立場になります。新元号初めての体育会で楽しくなりそうですが、それなりにとても難しいことがあると思うのがんばっていきたいです。

## 思い出に残る応援合戦

2年5組 柚木 星夏

私は体育会の応援合戦で副チアという幹部をやりました。責任もあつたけど、やり切ると決めてやりました。練習では、あまり役に立たなかったかもしれないけど、声とか振りの大きさを家でも練習しました。完璧に振りを覚えるために録画したり、祖母に見てもらったりしまし



した。トラブルも起きましたがすぐ取り戻し、団結してすごい応援合戦にしようと努力しました。

体育会の前日の夜、私の家の食卓に並んだのは「カツカレー」でした。なぜカツカレーなのかなあとと思ったら、母が「明日はカツのよ。勝負にカツのじゃなくて、自分にカツのよ」と言いました。私はなぜか「うん」と言っていました。今でもなぜあの時「うん」と言ったのかわ

た。ダメなところを言ってもらって、そこを直すのに時間がかかりましたが、がんばりました。私がこの応援合戦で大切にしていきかけた事は団結です。私は、みんなと協力した素晴らしい姿を見てほしいと思います。

かりません。

当日、緊張しすぎてドキドキが止まらなかったけど、「楽しくやろう、やり切ろう」と決断しました。賞は取れなかったけれど、みんなとの団結が見られて私は最高でした。来年も思い出に残る体育会にしていきたいと思いました。団長、チア、副団、副チア、3年生の皆さん最高の思い出がありありがとうございます。一生の思い出に残る体育会でした。

### みんなへの感謝

3年3組 榎田 愛羅

今年の体育会は今までで一番良い思い出になりました。理由は3つあります。

1つ目はマ스ゲームです。初めてのマスゲームでリーダーをやらせてもらいました。体育の授業でしか練習できなくて、本番がとても心配だったけど、実行委員のみんなのサポートがあったのでとてもやりやすかったです。本番では、最後までとても楽しく踊ることができました。

2つ目は応援合戦です。中1のときからやりたいと思っていたチアになることができました。いざなってみると全体をまとめることはそんなに簡単なことでは

ないと分かったし、最初は自分が何をしたいのかわかりませんでした。しかし、団長、副団、副チア、幹部のみんなの支えがあつてとても嬉しかったです。私はチアになって応援合戦でしてみたい事がありました。それは、踊る曲の系統をバラバラにして、その曲にあったダンスに変化をつけて表現することです。湯浅さんと浅野さんにも協力してもらってとてもいい作品をつくることができました。それが評価にもつながったので、とても嬉しかったです。結果は、応援の部優勝。去年の体育会で副チアをさせてもらって



良かったです。

3つ目はリレーです。毎年出ているリレー、今年は今までで一番緊張してしまいました。他のクラスのアンカーはみんな速い人で自分のせいであられたらどうしようかととても不安だったけど、何とか走りきり、3位でした。やっぱり悔しいです。今一番伝えたいことは、私の番までバトンをまわしてくれたリレーメンバーへの感謝の気持ちです。本当に3組よかったです。

ほつま祭、体育会でたくさんの思い出ができました。次は勉強。切り替えてすべての事を一生懸命頑張りたいです。

### 中学最後の体育会

3年4組 浅野 結衣梨

力強いファンファーレと共に中学体育会が始まった。2日前の大雨と暴風で荒れていた天気とは違い、体育会にふさわしい秋晴れだった。

ほつま祭が終わって休む暇もなく体育会への取り組みが始まった。忙しかったのは中3だけでなく、全学年がそうだったと思う。体育会までの日にちも少なく、私は昨日の体育会があんなに盛り上がる



とは全く思ってもいなかった。

応援合戦の練習では、昨年まで「先輩方はいつの間にダンスを覚えたんだろう」と度々思うほど毎日のように新しいことを次々と教えてくださった。いざ、中3になってみて、その大変さがやっと分かった気がした。毎日下校時刻まで残ってダンスを覚えたり、それを何も知らない中1、中2の子に教えたりするのは、本当に難しく大変だった。でもそれと同時に今までいろんなパフォーマンスができるようになった達成感や、中1、中2の子たちがどんどん上達していくうれしさをたくさん感じる事ができた。そして何

より、団長、チアを中心とした幹部の存在が大きくて、頼もしくて、心強かった。4組で、このメンバーで応援合戦ができて、本当によかった。そして一番



緊張した400mリレーでは、今まで1位をとったことがなかったのですが、今年こそは、と思つて臨んだ。私は、スタートが肝心な1走目だった。とにかくバトンをつなごうと思つて必死だったせい

いか、走つた時の記憶はほとんどないが、気づいたときには4組は1位でゴールしていた。言葉に出ないうれしさがこみあげてきて最高の思い出になった。今年も中学校の二大行事はあつという間に終わってしまった。次はゆずり葉かと考えると、ゆずり葉の日が来なければいいのと思う。中3もあと半分、このクラス、この学年でしかできないことをたくさんしたい。これからも、一日一日を大切にしていこうと思う。

# 高2修学旅行 北海道コース

●1日目

北海道修学旅行1日目

河田 大輔

僕達は4泊5日の北海道の修学旅行へ行きました。楽しんで下さい。と両親



た。初めての北海道、そして4泊5日の長い旅行ということでとても楽しみにしていて心をワクワクさせました。

に送り出され、大きな荷物と大切なバットを抱えて家を出まし

約2時間の飛行機に乗り、北海道は岡山とどう違うのかとドキドキしていました。実際に飛行機から降りてみると、思った以上に寒く曇っていました。しかし、ひんやりとした空気は澄んでいておいしく感じました。

江戸時代に作られた五稜郭は函館戦争では本拠地となったそうです。五稜郭タワーから見るととてもきれいな星形をしていて素晴らしい景色でした。

夜には函館山からの夜景を見に行きました。しかし、あいにくの雨で美しい夜景を見ることはできませんでした。絶景だと期待していた分ショックが大きかったです。

ホテルに戻り大浴場にみんなで1時間ぐらい入り、テニションが上がった初日の夜がふけていきました。

●2日目

充実した2日目

江原 雛子

小雨の中始まった修学旅行2日目。函館での自主研修では赤レンガ倉庫に行きました。オルゴールを見たり北海道らしいお土産を買ったりと北海道に来て初めての自主研修にウキウキしました。昼食は北海道で有名なハンバーガー屋さんに行き、大きくておいしいハンバーガーを食べられてみんな大満足でした。ペンションは女子寮にいたみたいでい



つものホテルとは違った楽しみ方ができました。ホテルより全員との距離が近く班員以外にも親睦を深めることができました。先生がいなかった分ペンションの人の話をしっかり聞いて、お風呂の準備やご飯の準備など自分たちで考えて行動できたと思います。ペンションでのご飯はすごくおいしくて北海道コースにして良かったと思いました。

小学校や中学校の修学旅行とは違って自由な時間が多い分楽しさが何倍にもなりました。また自分たちで考えて行動することができ成長も感じることができました。

●3日目  
3日目ニセコ体験

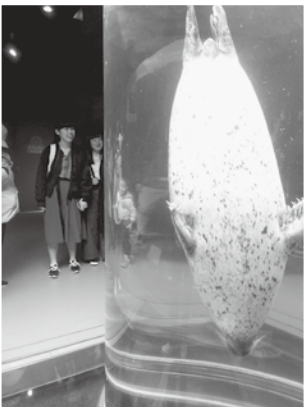
友國 真琳

私はニセコでのアクティビティ体験でラフティングをしました。ラフティングとはゴムボートに乗って川を下るアウトドアスポーツです。参加するならスリリングなことがしたいと思ってラフティングにしました。私はインストラクターの方と合わせて8人のグループでボートに乗りました。インストラクターのケンさ



んはとても明るい方でラフティング中にも盛り上げてくれ、私たちを楽しませてくれました。前日までの雨で川の水量が増えて流れも強く、「君たちいいときに来たね」と言ってくれました。一生懸命漕ぐ時であれば、流れのゆるやかな場所では川に飛び込んだり足を川につけたり

して楽しみました。近くにきたボートの人たちと水をかけあったりもしてとても楽しかったです。終わった後はびしょ濡れになってしまい着替えが少し大変でしたが、もう一度体験したいと思えるとても有意義な時間を過ごすことができました。





## ●4日目 北の大地の命

山本 幸歩

北海道の寒さにもだんだん慣れてきた私たちが寒波が激しく襲う4日目の朝を迎えました。旭山動物園の気温計は8.9℃を示しています。そんな中でも勇ましく生きる動物たちに私は心を打たれました。私が一番忘れられないのは抱卵中のペンギンでした。寒い中でじっと卵を温め続けていた母親ペンギンには命の温もりを感じました。旭山動物園を代表するホッキョクグマやライオンやタイガーはとも迫力がありました。この動物園には檻や柵は少ないため、普段見ることでできない動物や自然もとても近くに感じることができました。

その後の美瑛の丘、ファーム富田、ニングルテラスでは北の広大な自然を見ることができました。あたり一面にどこまでも広がる牧場やラベンダー畑を目前にする心がすーっと軽くなって寛大な人になれるような気がしました。明日は空の上からこんな自然が見られると思うとワクワクが止まりませんでした。

日でした。

## ●5日目 思い出に残った最終日

平井 優太

修学旅行最終日は雲海を見るための早起から始まりました。修学旅行中ずっと天気が悪かったから見られるか不安でしたが、寒い中ゴンドラに乗りました。上に着いてみると見渡す限りの雲海があり感動しました。人生初の雲海で、早起きした甲斐がありました。

アイヌ民族博物館ではアイヌ語の先生のお話を聞きました。アイヌ語は想像以上に言葉が違い文化の違いを感じました。先生は元からアイヌ語を話していたのではなく59歳という年齢でアイヌ語を学び始めたことにも驚きました。そして



アイヌ文化を長年伝えてきた事も素晴らしいことだと思いました。ノーザンホースパークでは多くの馬と触れ合うことができ貴重な体験ができました。5日間を通して自分たちで考えて行動することで多くのことを学ぶことができました。終わってしまうのが惜しいと思うほど楽しく充実した修学旅行になりました。

# 高2修学旅行 オーストラリアコース

## ●1日目

杉田 愛佳

ついに待ちに待った修学旅行の日がやって来ました。午後2時に学校集合というので、朝は他のコースよりもゆつたりと過ごせましたが、早く出発したくてドキドキワクワクしていました。出発式を終えて関西国際空港行きのバスに乗ると、外から先生や保護者の方々が手を振ってください、私は1週間会えない寂しさがありませんでしたが、オーストラリアでの海外研修という貴重な体験を与えてくれたことに感謝しながら笑顔で手を振り返しました。

関西国際空港に到着すると、空港内がとても広く、そしてきれいでびっくりしました。出国手続きなどは特にハプニングが起きることもなく、全員無事に行くことができて良かったです。搭乗待合室ではガラス越しに友達と夜の飛行場を眺め、普段見られない景色にうっとりしました。飛行機が離陸した時、機内はざわ

## ●2日目

佐藤 成望

ざわとし、他に搭乗していた学校の生徒からも歓声が上がりました。機内食は箱を開けた時はイタリアンで嬉しかったが、味はあまり口に合わなくて残念でした。夕食を終えると、まだ興奮状態でしたが、早朝の起床に備えて早く寝ることにしました。

約6時間半のフライトを経て朝4時にケアンズに到着しました。少し朝日が顔を出している中、私たちはビーチへ向いました。朝日を背景にしたビーチはとてきれいで、寒さを忘れるほどでした。

その後、50分近くスカイレールに乗りました。一番高い所で54メートルという普段は体験できないもので、とても楽しかったです。気持ち良い風に吹かれた後は、キュランダマーケットに向かいました。そこにはオーストラリア独特のお土産がたくさんあり、時間を忘れるほど楽



しかったです。続いてレインフォレステーション・ネイチャーズパークに行き、アボリジニの生活様式やダンスショーを見て文化の違い



いを感じ取り、実際にプーメランを投げ  
て現地の文化を体感しました。昼食は  
色々な種類のお肉を食べました。とても  
独特で、日本にはない味でした。昼食  
後、コアラを抱っこしたり、水陸両用車  
に乗ったりと、オーストラリアの文化を  
肌で感じられた1日となりました。  
最後にアサートン高原にバスで向かい  
ました。どんなホストファミリーと過ご  
すのか、心待ちにしていました。実際会っ  
てみると、とても優しくそうな人で、その  
瞬間、ファームステイが今まで以上に楽  
しみになってきたのを今でも鮮明に覚え  
ています。2日目は私にとって、とても  
印象的な1日になりました。

### ●3日目

岡本 涼顕

朝6時、二度寝を配慮しての一度目の  
起床。暑いと思つて半そで半ズボンで  
持つて行きましたが、オーストラリアは  
冬。もしもの時に備えていたパーカーが  
ありがたかったです。7時半頃、同じ班  
の平松君に起こされて、髪の毛を整え、  
歯磨きをしました。昨日は寒さと緊張の  
あまり、ホームシックにかかつてしま



ましたが、今日は思いっきり楽しみたい  
と思いました。  
8時に朝食を食べました。寝ぼけたま  
ま、ホストファミリーのポーンさんとク  
リスさんにあいさつをしました。コーン  
フレックとベーコンエッグの朝食を会話  
をしながら楽しみました。その後、ポー  
ンさんの運転する車で名所へ向かいまし

た。まずは湖をボートで周遊しました。  
そこで見た巨大なウナギが忘れられませ  
ん。自然も雄大でした。次に向かったの  
はお茶の農園でした。そこで、木の上に  
登るカンガルーに出会い、記念に写真を  
何枚も取りました。その後、お母さんの  
お土産に紅茶と緑茶を買いました。  
正午、クリスさんの作った美味しいチ  
キンスープをいただきました。オースト  
ラリアで食べた食事の中で、もう一度食  
べたいと思える味でした。3時頃に車で  
向かったのは、大きなタンクが目印の牧  
場でした。牛や豚だけでなく、日本では  
見慣れない動物がいました。ポーンさん  
に、その牧場で取れたミルクで作ったア  
イスをごちそうになりました。  
午後8時、夕食後にクリスさんの案内  
で、家の周りを探索しました。明日は瀧  
を見に行く予定であり、とても楽しみで  
す。

### ●4日目

岡本 健

私たち1班を起こしたのは、昼間から  
は想像もつかない寒さでした。時刻は8  
時を少し過ぎたくらいで、ホストマザー

のサンデーは11歳になる娘のショーエ  
ンを既に学校へ見送ったようでした。2  
つの二段ベッドから、それぞれ体を起こ  
し、朝食を取るべくリビングへ向かいま  
した。緊張もあり、あまり話せなかつた  
昨日を挽回すべく、皆大きな声で朝のあ  
いさつをしました。今日はオーストラリ  
アの熱帯雨林を見た後、ピクニックをし、  
夕食はパーベキューをするという予定  
で、前夜からとても楽しみにしていまし  
た。朝食にシリアルとスクランブルエッ  
グを食べ、早速目的地へと車を走らせま  
した。その車内で、私は日本にはない風  
景、山にさえぎられない広大な丘、のん  
びりと過ごす牛や馬などに興奮を隠し切  
れないでいました。

強い日差しの中、熱帯雨林に着くと、  
日本とは全く異なる植生に驚きました。  
どれも背が高く、一つの樹木に何本も巻  
き付いているなど、とても力強い印象を  
受けました。また、動物もたくさんおり、  
野生のニワトリやワラビーなどを見るこ  
とができました。昼食は大きな湖の近く  
でピクニックをしました。とてもきれいな  
湖で、オーストラリアでは冬にも関わ  
らず泳いでいる人もいました。そこから





自宅に帰る途中、スーパーマーケットに立ち寄って英語を使って買い物をしました。オーストラリアの人々はとても優しくフレンドリーで難なく買い物ができるまで家に着くと、パーベキユウが学校から帰っており、パーベキユウができるまでの間、地元の遊びや牧場の牛や馬などを紹介してもらい、生き物を間近に感じることができました。パーベキユウではオージービーフやソーセージ、ハンバーグなどを食べました。どれもジューシーでもとても美味しかったです。

明朝でお別れとなってしまうのですが、本当に良い体験ができたし、みんな良い人たちばかりでした。オーストラリアに来る前は、外国をとてん遠く感じていましたが、案外近くにあるのだなと思いました。

●5日目

井上 颯人

この日はホストファミリーとの最後の朝。長いようで短かったホストファミリーとの生活。私はホストマザーの運転でこの3日間の思い出に浸りながら最後のドライブをしました。朝焼けの外には

気球が浮かんでいました。私はホストマザーと別れ、待ちに待ったグリーン島へ出発しました。ケアンズ港からグリーン島への長旅を終えて青い海が広がる砂浜に上陸しました。ランチを食べ終え、私は海へと急ぎました。海の中にはオレンジ色のクマノミが泳いでいました。私はシュノーケリングのゴーグルを手に取り、仲間とともに無我夢中で泳ぎ続けました。そのせいか帰りの船では波に揺られながら眠りについていました。ケアンズ港に着いてシティープレイス周辺の自主研修に入りました。シティープレイスは日本人も多く、買い物するときも日本語で通じる店が多くありました。16時を過ぎると夕暮れの空にコウモリが無数に飛んでいました。シティープレイスの散策を終えケアンズ市内にあるホテルへと向かいました。

オーストラリアでの最後の夕食では日本食で、お米を食べることができました。夕食を終えて明日の日本への帰国準備を始めました。

来た時より閉まらないトランクがオーストラリアでできたたくさんのお土産を感じさせてくれました。楽しかったこと



や辛かったこと、うれしかったこと悲しかったことを胸に、このトランクを閉めました。その日は疲れていたせいか、ふとんに入るとすぐに寝てしまいました。

●6日目

中山 結衣

修学旅行最終日。疲れていて朝なかなか起きることができずに友だちに起こしてもらいました。

オーストラリアでの最後の食事はホテルのバイキングでした。朝食後、泊まっていたホテルを後にし、ケアンズ空港へ向かいました。空港について搭乗手続きをして搭乗ロビーに行くと飛行機がたくさん見えました。もう帰るんだと実感したと同時に、この多くの思い出ができたオーストラリアを離れることへの寂しさがこみあげてきました。飛行機に乗ると飛行機は勢いよく滑走路を走り大空へと上昇していきました。機体が何度か上空で揺られて怖かったです。帰りは行きに比べて疲れていたのかとても短く感じられました。関西国際空港に着いていくつかのチェックを受け、無事日本に帰国することができました。関西国際空港に着い

たとき、周りの文字が日本語で、聞こえてくる言語も日本語ばかりで、安心しました。オーストラリアにいるときは英語ばかりで、普段の日常と違い慣れない環境でとても不安だったからです。

関西国際空港からは下渚に向かう人と岡山駅に向かう人とで分かれてバスで帰りました。途中でサービスエリアによって休憩をはさんで3時間40分で着きました。両親と久しぶりに再会し家に帰りました。家に帰ると母がご飯を作ってくれました。久しぶりに食べた日本食は美味しかったです。幸せでした。



# 高2修学旅行 シンガポール・マレーシア

●1日目

佐藤 みづき

6月11日、私達はシンガポールに行くため朝早くから学校に集まり、広島空港に向かいました。バスの中では、友達と「シンガポールってどんなところなのか」など話しながら、たくさん想像を膨らませていました。

羽田空港で乗り継ぎ、ついにチャンギ空港に到着。外に出た時、モワツとした熱気を感じました。シンガポールは暑くて湿度が高いと聞いていたけど私の想像を超えていました。

迎えに来てくれた現地のガイドさんはテリーさんという方でとても面白くて、シンガポールのことをたくさん教えてくれました。バスからの景色は思った以上に都会で、高くておしゃれなビルがたくさんあって、右を向いたり左を向いたりと忙しかったです。

そして、初めてのシンガポール料理は、シーフードでした。全て美味しかったけ

ど、シンガポール名物のチリクラブが特に美味しかったです。その後、一番楽しみにしていたマリーライオン公園でのシンガポールの夜景見学では、マリーナベイ・サンズやマリーライオンを見ることができました。綺麗なライトアップされたマリーライオンを背景に友達と記念撮影を楽しみ、とてもいい思い出になりました。

この日は、観光よりも移動時間のほうが長かったけど、とても充実した一日になりました。

●2日目

中川 修一

修学旅行の2日目には地元の大生と一緒にシンガポール市内を観光しました。最初、地元の大生とは話しく、ぎこちない感じがありました。しかし、途中から話せるようになり、色々なことを質問しながら多くの場所に行きました。マリーナベイや植物園などにも行きオススメの店や商品、食べ物を教えても



人の列車が通っている事にも驚かされました。2つ目は物価が高いことです。日本と違い各商品の値段が高く感じました。この時は100ドル(シンガポールドル)持っていました。半分くらいが飲み水で消費されました。そのため夕方には20ドルしか残りませんでした。最後に大学生の人に集合場所のフードコートでのオススメの料理を教えてくださいました。

修学旅行2日目はシンガポールの文化や日本との違いを一番感じられたものになりました。



●3日目

神原 花奈子

3日目はシンガポールからマレーシアに移動しました。

まず初めに、アプバカル回教寺院に行きました。ものすごく大きな建物で、周りに見える風景はとても印象的でした。

マレー文化体験では、パティック染め体験をしました。布にロウで描いてある花の絵に自分でグラデーションに色付けをしました。ちょっとはみ出したり失敗したりしたところもあったけど、とても綺麗にできました。

マレーダンス鑑賞では、日本では見たことがないとても華やかな衣装で、マレーシアの文化を学ぶことができました。

マレー料理のビュッフェでは、とてもスパイシーなものが多くて、めったに食べられないご飯が沢山あって異国の食文化を体験できました。ご飯を食べた後は、シンガポールに戻りました。

ホテルに着いてから、ホストファミリーと対面するまでしばらく時間がありました。私は、初めてのホームステイだっ

たのでとても緊張しました。会話できるかなどとても心配でした。

ホストファミリーはとても親切にしてくれました。フードコートでご飯を食べたり、買い物ではチャイナタウンに連れていってもらったりしました。夜のチャイナタウンは、とても賑やかで、いろんな食べ物などが売ってありました。お土産を買ったりできてとても楽しかったです。

最初、英語で会話するのは慣れてなくて、聞き取れないこともあったけれど、会話できた時はとても嬉しかったです。シンガポールの飲み物を飲んだり、お菓子を食べたりすることができてよかったです。

英語を实际使うのは初めてで、自分の英語力では、伝えたいことがうまく伝えられない事もあったので、沢山英語を話せるように勉強しようと思いました。

#### ● 4日目

米村 咲南

4日目の朝は6時起床でホストファミリーが出してくれた朝食を食べ、一緒にホテルに行き、お別れをしました。半日

のホームステイでしたが、やはり寂しかったです。

その後は、セントーサ島に行き、班別の自主研修をしました。初めにマラーイオン像の前で集合写真を撮りました。像は、マラーイオン公園のものよりも大きかったです。それからは班に分かれて行動しました。私の班はユニバーサル・スタジオ・シンガポールに行きました。日本のものより規模は小さいようでしたが、感じさせないクオリティでした。4つのアトラクションに乗り、パーク内で昼食をとりました。集合時間の1時間半前からおみやげを買い始め、パークを出てからもセントーサ島内の店で買い物をしました。夜はシンガポール動物園で夕食をとりました。日本の食べ物ばかりで嬉しかったです。暗くなる頃に、ナイトサファリツアーが始まりました。檻なしで近い距離から動物を見るのは怖かったです。ゾウやサイなど大きな動物は、いるだけで迫力があり、とても貴重な体験でした。



#### ● 5日目

神処 一樹

5日目は、シンガポールを深夜2時に発つことから始まりました。飛び立った空から見下ろすシンガポールの夜の町並みは、昼間とは違った闇夜に輝く無数の

光が美しく、どこか切なさを感じさせるものでした。そんな景色を見ていると、

この修学旅行の思い出が頭の中を駆け巡りました。同時に、そのひと時ひと時が利那的であったことに気づきました。深更での出発は、



とても眠く、目覚めたのは朝でした。朝食は少し冷えた体を温めてくれました。飛行機での移動、食事もこの旅の楽しみであると感じました。行くときにはあんなに長く感じた機内での時間も帰りはあつという間でした。円とドルとの間のずれた金銭感覚と同様に、時間の感覚もずれているように思えました。その後、羽田空港に到着する時刻が遅れたため、羽田空港での食事がなくなり残念でした。しかし、これもまた思い出の1つとして胸の片隅にしまっておくことにしました。羽田空港から広島空港への道のりで、調べ学習から始まったこの修学旅行もついに幕を下ろしました。米村首脳会談の日程とも重なり、



一時は行くことさえも懸念される状態であったシンガポール・マレーシアの修学旅行。この経験は、私たちの人生においてとても重要な役割を果たすことでしよう。そんな貴重な体験の手助けをしてくれたすべての人に感謝したいと思います。

# 探究 授業報告

## 中3探究

### ○職業調べプレゼンテーション

夏休みの課題で興味・関心がある職業についての調査を行い、2学期の授業でプレゼンテーション用のスライドを作成しました。11月には各クラスで発表会を行い、お互いに評価しました。

## 高1探究

### ○探究国語（1時間）

高2探究クラスの「人文学ゼミ」「教育ゼミ」の研究テーマとその内容を紹介します。先輩の研究の課題設定と研究の様子を概略をガイダンスしました。また、岡山大学、広島大学の今年度の文学部の開講テーマや卒業後の進路などを示し、言葉を用いることの大切さや注意点を考え、各自の思いを記述しました。

### ○探究物理（2時間）

「重力加速度の測定実験」のテーマで班ごとに実験を行いました。実験の後の考察が重要であることをふまえて、9.8m/s<sup>2</sup>からずれた理由について、実験を振り返りながら班ごとに考察しました。また、再実験をするならば具体的にどのような改善点があるか考え、互いに発表を行いました。

### ○探究英語（2時間）

高2での課題研究のために、これまでに金光学園で取り組んできた英語に関する探究活動について紹介しました。また、「EUがあなたの学校にやってくる」の実施に合わせて、EU作成の冊子「Let's explore Europe」英語で学ぶ「EU」[Panorama—欧州連合(EU)を知ろう]を用いて、事前学習と講師(ドイツ総領事)への質問を考えました。講演当日はヴェルナー・ケラー(ドイツ連邦共和国)総領事から、EUやドイツについてのお話を聞いて、感想をまとめました。

## 高2探究

### ○ゼミ活動

2学期前半は文系3ゼミ(人文学、教育、グローバル)、理系5ゼミ(数学、天文、物理、化学、生物)での個人またはグループ活動で研究を進めました。

理系ゼミは10月3日(水)に、文系ゼミは10月4日(木)に課題研究校内発表会を行い、研究の成果を発表すると同時に、プレゼンテーション力を養うことができました。また、助言者の先生方からアドバイスを頂きました。

2学期後半からは研究論文の作成に取りかかりました。3学期は3月9日の探究活動成果発表会に向けて準備を進めていきます。

### ○各種発表会・コンテストへの参加

7月16日に大阪教育大学で開催された「第8回高校生天文活動発表会」に天文ゼミの詫間君、八方君、中塚さんが参加しました。

8月8、9日に神戸国際展示場で開催された「SSH生徒研究発表会」に天文ゼミの詫間君、八方君、中塚さんが学校



代表として出場した。

8月23日に神戸山手大学で開催された「第10回観光甲子園」の訪日部門に人文学ゼミの長田君、服部君、平井君、吉田君、渡辺君、平佐さん、丸野さん、守分さん、吉川さんが出場し、審査員奨励賞

を受賞、海外部門に平佐さんと守分さんが出場し、審査員奨励賞を受賞した。10月20日に尾島で開催された「ニッポンたからものプロジェクト倉敷講演」に人文学ゼミの長田君、服部君、平佐さん、丸野さん、守分さんが参加した。

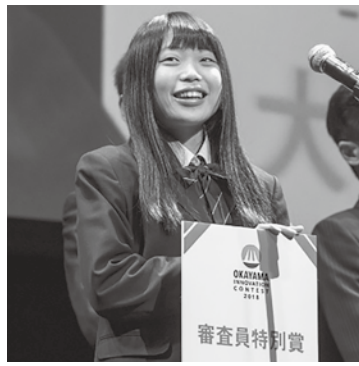
10月22日、23日に、富山県で開催された「日本遺産サミットin高岡」に人文学ゼミの長田君、服部君、平佐さんが参加した。

10月26日にノースアジア大学で開催された「第6回高校生私達のまちの観光魅力アップコンテスト」に人文学ゼミの服部君、吉田君、平佐さん、丸野さんが出場し、平佐さん、丸野さんが最優秀賞を受賞、吉田君が奨励賞を受賞した。

11月3日に山陽学園大学で開催された「第2回上代杯 高校生英語プレゼンテーションコンテスト」に人文学ゼミの丸野さん、守分さんが出場した。

11月11日に日本経済大学で開催された「未来開発ビジネスアイデアコンテスト」に人文学ゼミの渡辺君が出場した。

11月24日に関西学院大学で開催された「SCI-TECH RESEARCH FORUM 2018」に数学ゼミの倉田君、中村君、竹



内さん、増成さん、生物ゼミの岡本健君、岡本紘君、小田原君、小島君、徳田君、永原君、湯原君が参加した。11月24日に中国銀行、山陽新聞社主催の「岡山イノベーション部門(高校生部)」に教育ゼミの山本さんがファイナリストに選出され出場し、審査員特別賞を受賞した。

11月25日に岡山北西ロータリークラブ主催の「第4回高校生による岡山の歴史・文化研究フォーラム」に人文学ゼミの渡辺君、平佐さん、守分さん、丸野さんが出場し、優秀賞を受賞した。

▼第64回青少年読書感想文

岡山県コンクール自由図書

佳作

『奇跡の決勝』

高1 高橋南成子

なぜ勝てたのか。なぜ勝てなかったのか。勝負。勝ち負けが決まるものには誰もが勝ちたいはず、私はそう思う。そのために、練習や努力を積み重ね、勝利を目指す。私自身、高校生になり、自分の目標に向けて努力していて、結果的にはやはりその勝負に勝つ、すなわち目標を達成したい。そんな中、『奇跡の決勝』という本の題名を見て、どんな奇跡なのか、本当に奇跡は起きるのか、と疑問に思い読み始めた。

「奇跡の決勝」高校野球の地方大会決勝には、そう呼ばれる試合が多い。九回裏に八点差からの逆転劇が起きたり、強豪校が無名の公立校に圧倒されたり、あるいは、決勝だけ勝てない学校があった

ゆとりが、選手に対する言動や表情、チームの采配に影響するということだろう。私自身の実体験も含め、経験することは自分にとって大きな力になり、その経験が結果につながることを痛感した。

そしてもう一つ、私には気になる言葉があった。高校野球界ではよくこう言われるそうだ。「決勝は甲子園に選ばれた方が勝つ」甲子園は何をもって勝者を選んでいるのだろうか。私はこう思った。実際、甲子園が選ぶなど出来ないのだから何かの比喩だろう。私が思うに、これは常日頃の行動や姿勢、些細なことが甲子園に見られている、つまり、甲子園へと導いてくれるということではないだろうか。「夢を諦めない」という言葉があったが、本当に諦めずに努力し続ければ甲子園が見えてくれるだろう。努力しても、ダメな時はあるが、努力しなければ絶対結果はついて来ない。この言葉が信じられるような気がした。

地方大会の決勝というのは、それだけ重い試合なのだと思う。天国と地獄。この本の最初に書いてあった言葉だ。勝て

り……様々なことがある。なぜ、地方大会の決勝には波乱が多いのか。私はすぐに、甲子園出場を賭けた最後の戦いで、両チームとも必死だからだと思った。しかし、それだけではなくいろいろな理由があった。その理由は、勝者・敗者となった監督が実際の決勝を振り返ることで明らかになった。それは、ポイントとなった采配の意図、練習してきた内容、そして決勝前夜のチーム事情など多くのことがかかわっていた。その中で私が最も驚いたのは、監督の甲子園出場経験が関係するというデータがあるということだ。

人には負ける。少林寺拳法を初めて知った時、私はその「教え」に強く心を動かされた。少林寺拳法の修行は心身ともに健全でたくましい人間になることを目指す。それを忘れ、ひたすらに技の上手さや、腕力の強さを競ったり、相手を倒すことだけに熱中したりすることがあってはならない。たとえ相手の力に一時的に負けたとしても、それは本当の「負け」ではない。生きていく中では失敗することもある。しかし、失敗したかどうかではなく、その失敗から何を学べるか、つまり経験値としていかに高められるかによって勝ち負けが決まるのだ。本当の強さとは、自分の人生を力強く生き抜くために、さまざまな経験を糧に、うぬぼれではない自信をつけることだと少林寺拳法を通して教わった。このような少林寺拳法の教えを胸に日々練習することで、強い心を鍛え、大会に平常心を保ちながら臨むことが出来る。その結果、勝利というものを手に入れることが出来るのだと私は思う。

これまで、野球の勝敗には監督の力が関係すると聞いたことはあったが、甲子園の出場経験が関係しているなど考えられなかった。特に、監督自身の監督としての甲子園出場経験があるかないかは大きく関係しているというのだ。

これは野球でも同様で、特にチームを率いる監督自身の経験から出る精神的な

ば夢の甲子園、負ければ一瞬であこがれの舞台へのチャンスは無になる。選手にとっても監督にとっても甲子園は特別な存在だろう。だからこそ、いつも通りのことが出来なくなり、土壇場でドラマが起るのだ。天国と地獄。この言葉がこれほど当てはまる試合はない。その通りだと思った。

努力を続けること、色々な事に挑戦すること。それが自分自身の成長につながる、勝利へと導いてくれるのだと私は思う。今、練習がつらくて大変でも、もう少し頑張ろうという気持ち、諦めない心が大切なのだ。この本に出会い、読んだことで目標を達成することが出来たと言える自分でありたい。

この本との出会いは私を励まし、勇気づけてくれた。日頃から目標に向かって

入賞おめでとう

▼岡山県児童生徒書道展

審査委員長賞

中3

赤沢

梨吏

▼「小さな親切」運動岡山県本部  
平成30年度書道コンクール

優秀賞

中3

赤沢

梨吏

▼第16回永瀬清子賞

「負けない心」

優秀賞

中2

小野

貴義

「ウィッグどうですか?」

佳作

中1

田中

希莉子

「背番号二桁の勇猛邁進」

佳作

中3

森井

颯汰

▼「明るい家庭づくり」作文

佳作

中1

高橋

莉奈

# ある日のホームルーム 高校1年4組



ほつま祭に関連したホームルームです。1年4組は留学生のサンニさんを迎えたことをきっかけに、フィンランドをテーマにフィンランド文化の理解についてクラスで進めてきました。

この日のホームルームでは、フィンランドが生んだキャラクター「ムーミン」について調べ、ムーミンの模型やどこから見てもこちらを見ているようなムーミンのペーパークラフト、登場してくるキャ



クターなどの模型を作製しました。フィンランドについて調べ、まとめる中で、サンニさんにもインタビューをして現地生の声を模造紙に活かすことができました。クラスの実行委員を中心にみんなで協力して、楽しみながら、取り組みました。

サンニさん自身は、母国フィンランドについての紹介プレゼンの作成も行いました。言語、文化、休日、伝統的衣装、楽器などについて、楽しく分かりやすくまとめていました。スライドの中には、サンニさん自身が撮ったフィンランドの夕日の写真なども取り入れられており、とても印象に残る作品に仕上がっていました。4組のみなさんは、サンニさんのプレゼンを聞くことで、フィンランドの文化について、理解を深めることができ、異文化に触れるとて

も貴重な機会となりました。フィンランドには制服がないことや日本よりも長い夏休みなど、日本との違いを知って驚いていました。また、今回はスライドの作成の仕方という意味でも大変勉強になったようです。サンニさんのスライドは、絵や写真が大半を占めており、文字は大きく、図や表を上手に活用しており、非常に見やすいものとなりました。

この日以外にも、4組はクラス全員で協力をして、展示作品を作製していきました。放課後等の取り組みにおいては、実行委員さんが仕事の分担を上手にして、クラス全員で団結して取り組むことができていたようです。その結果、高校展示の部で、見事3位入賞を果たしました。

今回はほつま祭の取り組みを紹介したものでしたが、4組の皆さんは、日常的にサンニさんとふれあうことによって、フィンランドという国に興味・関心が深まると共に、異文化への関心が高まったようです。また、授業で習った英語を活用する大変良い機会ともなり、サンニさんは4組に貴重な機会を提供してくれました。

## 生徒会活動

### 《高校生徒会》

体育会 9月11日(火)に開催された。前日までの雨の影響により、1時間遅れで開会式が行われた。当日は良い天気恵まれ、すべてのプログラムを実施することができた。様々な競技で熱戦が繰り広げられ、黄ブロック(2年2・3・4・6組)が優勝、青ブロック(2年1・5・7組)が第2位、紫ブロック(1年1・3・5組)が第3位となった。

秋季球技大会 10月18日(木)に1年生・2年生で実施した。ソフトボール、フットサル、ドッジボール、テーパーボールの4種目が行われ、1年生は1組が、2年生は2組が優勝した。

《新聞部》 9月に教育実習生紹介号を発行した。恒例の夏合宿は、台風のため中止となった。

《天文部》 8月、夏合宿を弥高山で実施した。曇天のため、学習会を中心に実施

した。

9月、ほつま祭では、例年のように、展示・プラネタリウム・天文台公開を実施した。今年は新たに、太陽に関する動画展示を行った。

10月の夜間観測では、火星・土星などの惑星の観測を行った。

《写真部》 8月16・17日に行われた倉敷フォトミユラル主催高校生ワークショップ「PHOTO STADIUM」に2名が参加。ほつま祭では「untitled」をテーマに作品展示を行った。

《茶道部》 ほつま祭では「愛語」をテーマに行った。生徒は緊張しながらも、日ごろの練習の成果を発揮した。また、10月14日(日)に黒住教本部で行われた第69回献茶祭に参加した。県下で三大茶会の一つである大きなお茶会でお点前やお運びをさせていただき、とてもよい経験となった。

《英語部》 8月10日・11日に大阪のホテルフクラシア大阪ベイで行われた文部科学省後援PDA全国高校即興型英語ディベート合宿・大会に高2の辻川祐太郎、杉田愛佳、豊田祥子の3人がチームとして参加した。大学生を始めとする補助ス

タッフによる手厚い指導もあり、集中実践と大会を経験することで英語での発信力、論理的思考力など英語の運用能力を高めた。初めての参加であったが、他校の生徒とディベートを行い、6戦して1勝することができた。

《音楽部吹奏楽団》 7月14日(土)金光町子どもつどいにて、「シロクマ」「夏色」「勇氣100% Brass Rock」の3曲を演奏した。7月16日(月)里庄フロイデにて行われた浅口音楽フェスティバルで「糸」「365日の紙飛行機」「シロクマ」「ピギナーズデビュー」「翼をください」「夏は来ぬ」の6曲を演奏した。7月21日(土)金光学園こども園にて訪問演奏を行い、「夏色」「勇氣100% Brass Rock」「シロクマ」「おどるポンポコリン」の4曲を演奏した。7月22日(日)国際文化交流演奏会にて、「シロクマ」「365日の紙飛行機」「翼をください」の3曲を演奏した。

8月10日(金)長野県松本市で行われた第42回全国高等学校総合文化祭吹奏楽部門に岡山県代表として出場し、「Strange Humours」「煌夜」の2曲を演奏した。8月25日(土)同心幼稚園にて訪問演奏を行い、「シロクマ」「夢をかなえてドラえ



もん」勇氣100%「踊るボンポコリン」「ドラえもん」「ベリーブ」「夏色」「同心幼稚園園歌」の8曲を演奏した。8月26日(日) オープンスクールにて、「シロクマ」を演奏した。9月9日(日)ほつま祭にて、「Don't say that again」「Part of your world」「かっけれFUNK」の3曲を演奏した。10月2日(火)中学体育会にて、「海兵隊」「学園歌」「応援歌」「得賞歌」「ファンファーレ」の5曲を演奏した。10月19日(金) 中国高校生訪問団への歓迎演奏を行い、「北国の春」「365日の紙飛行機」「シロクマ」の3曲を演奏した。11月10日(土) 金光町音楽祭にて「グレイテストショーマン」「ベリーブ」の2曲を演奏した。11月16日(金) 第124回創立記念式にて、「神人の栄光」「学園歌」「君が代」「Everything for a dream」「YELLOW MOUNTAINS」の5曲を演奏した。11月23日(金) バンドフェスティバルにて、「グレイテストショーマン」を演奏した。

7月30日(月)〜8月1日(水)にかけて夏合宿を行った。サマーコンサートに向けて集中力の高い練習ができた。また2日目の夜には恒例となったパーベキュー大会を保護者主催で行っていただき、大変盛り上がった。

8月5日(日)に倉敷市玉島文化センターで15回目となるサマーコンサートを開催した。第一ステージは『夢』をテーマに様々な曲を披露した。新しく男声女声で歌を競う紅白歌合戦も行い、引き分けとなった。第二ステージは現役・OB OG合同ステージ。3年前から作曲をお願いしていた組曲が遂に完成し、全曲初演を北川昇先生ご自身にお願いし、素晴らしいステージとなった。第三ステージは企画ステージ。合唱だけでなく劇やダンス、チアリーダーイング、カラーガードなども披露し、多くの方に楽しんでもらえる演奏会となった。

9月9日(日)のほつま祭2日目にほつま体育館で発表した。高3が抜けた後の初めてのステージであったが、チアリーダーも発表し、元気がいっぱいステージにすることができた。

を販売し、無事に完売した。

《中放送部》 ほつま祭では、小体育館での演劇の音響を担当し、中学体育会では式典の司会や競技中の実況などを行った。

《高放送部》 9月に行われたほつま祭や体育会で放送係の仕事を務め、臨場感あふれるアナウンスで、会場の雰囲気盛り上げた。創立124年記念式では、高2山本幸歩が司会を担当し役割をしっかりと果たした。また、11月18日に就実高校で開催された第42回岡山県高等学校総合文化祭放送文化部門発表会兼第42回岡山県高等学校秋季放送コンテストで、高1阿部七菜子、高2内村彩乃が朗読部門に、高2黒川麻衣子、山本 幸歩がアナウンス部門に出場した。

《中高美術部》 中学は12月に行われる第23回岡山県生徒作品・表現活動発表会に向けてパネル作品を頑張っている。テーマを「四季」にして各学年ごとにアクリル画に挑戦している。

高校は来年1月にある岡山県高校美術展に向けて個人作品に励んでいる。

○インターハイが三重県で開催され、山下朋紀が8種競技で3位。110mハードルにも出場した。土屋健太郎がやり投げで8位。真田明日香が砲丸投げに出場した。

U20・18日本選手権が愛知県で開催され、U18やり投げで土屋健太郎が4位。山下朋紀がU20110mハードルに出場した。

○国民体育大会が福井県で開催され、山下朋紀が110mハードルで4位。谷野光琉が走幅跳、土屋健太郎がやり投げに出場した。

○全国高校選抜大会が大阪府で開催され、山下朋紀が5種競技で2位。谷野光琉が二段跳で4位に入賞した。

○全国中学校総合体育大会が岡山県で開催され、安福柘汰が110mハードルに出場し準決勝に進出した。

○ジュニアオリンピックが神奈川県で開催され、安福柘汰がB110mハードルで5位に入賞した。

☆中国大会

○中国5県陸上が島根県で開催され、山下朋紀が110mハードルで4位。土屋健太郎がやり投げ、谷野光琉が三段跳、荒木茉理亜・江原雛子・大熊彩月・谷本きな

りが1600mリレーに出場した。

○中国高等学校新人陸上大会が広島県で開催され、土屋健太郎がやり投げで2位。谷本きなりが100mで6位。大熊彩月が800mに出場した。

○中国中学陸上大会が広島県で開催され、安福柘汰が110mハードルで2位に入賞した。

☆県大会

○岡山県陸上競技カーニバルが開催され、谷野光琉が走幅跳で5位、三段跳で8位。土屋健太郎がやり投げで5位。谷本きなりが100m・200mで8位。荒木茉理亜・江原雛子が100mハードルでB決勝に進出。大熊彩月が800mで5位。吉實沙希がやり投げで8位。江原・荒木・谷本・大熊が1600mリレーで5位に入賞した。

○岡山県高等学校陸上競技選手権が開催され、土屋健太郎がやり投げで優勝。山下朋紀が100mで4位、三段跳で4位。谷野光琉が100mで5位に入賞した。

○岡山県高等学校新人陸上大会が開催され、土屋健太郎がやり投げで優勝。大熊彩月が800m2位・谷本きなりが100m3位、200m4位。仁平優宙が走幅跳で4位、110

mハードルで5位。吉實沙希がやり投げで8位に入賞した。

○ジュニアオリンピック岡山県予選が開催され、安福柘汰がB110mハードルで優勝、B100mで2位、B走幅跳で6位。西森翔真がA110mハードルで5位。和田真穂がA100mハードルで3位。小寺雄晴がC走幅跳で5位に入賞した。

岡山県中学校秋季記録会が開催され、西森翔真が三段跳で優勝。小寺雄晴が1年100mで優勝した。

《中野球部》 7月12、13日にどんぐり球場などで行われた備南西地区夏季総体は、1回戦寄島中学校に7-0で勝利し、代表決定戦で木之子中学校に2-0で勝利し、6年連続11度目の県大会出場を決めた。

7月26、27、28、30日に岡山県営球場や中山球場などで行われた県総体は、1回戦竜操中学校に5-2で勝利、2回戦勝山中学校に8-1で勝利、準々決勝で味野中学校に6-1で勝利、準決勝で金光中学校に10-4で勝利したが、決勝戦では倉敷第一中学校に2-9で敗れ準優勝となり、5年ぶり2度目の中国大会出場を決めた。

8月2日に総社球場で行われた総社市長杯は、1回戦で総社中学校に1―8で敗れた。8月8日に鳥取県米子市で行われた中国大会では、1回戦大内中学校(山口県)に5―4で勝利したが、準々決勝で智頭中学校(鳥取県)に1―2で敗れ、中国大会ベスト8であった。

新チームとなり、9月22日に奥市補助球場などで行われた全日本少年春季軟式野球大会岡山県予選会では、1回戦でオール井原アローズに0―8で敗れた。

10月13、14日に井原球場などで行われた備南西地区秋季大会では、1回戦芳井中学校に8―0で勝利し、2回戦金浦中学校に1―0でサヨナラ勝ちを収め、代表決定戦では鴨方中学校に4―1で勝利し、7年連続の県大会出場を決めた。

11月4日に神原スポーツ公園野球場などで行われた岡山県秋季大会では、1回戦勝山中学校に7―6のサヨナラで勝利したが、2回戦琴浦中学校に3―8で敗れ、ベスト8となった。

《高野球部》7月13日より開幕した全国高等学校野球選手権岡山大会では、1回戦は興陽高校に11対1で勝利し、2回戦は大安寺中等教育学校に6対4で勝利し

たが、3回戦で岡山商科大学附属高校に0対3で敗れた。3年生最後の大会はベスト16での敗退となった。

新チームになり、8月末から秋季岡山県高等学校野球大会西部地区予選が始まり、笠岡商業に4対3で、玉野商工に5対3にそれぞれ勝利したが、玉島商業に1対11で敗れたため、代表決定戦に回った。代表決定進出戦では倉敷南高校に8対3で勝利し、最終代表決定進出戦で倉敷青陵高校に7対0で勝利し県大会出場を決めた。続く県大会では、1回戦は、邑久高校に9対2で勝利したが、準々決勝で、倉敷商業高校に7対0で敗れ、ベスト16での敗退となった。

11月には岡山県高等学校野球1年生大会が行われ、1回戦では操山・大安寺の合同チームに9対1で勝利し、2回戦も岡山城東高校に5対3で勝利したが、3回戦は岡山理科大学附属高校に4対5で敗れた。夏から秋にかけての公式戦は全てベスト16での敗退となってしまった。

《ラグビー部》7月21日(土)～22日(日)に高体連夏季強化練習会に参加し、新チームとして初めての試合を経験した。8月17日(金)～19日(日)には校内合

宿を実施した。卒業生や外部コーチの指導を受け、また創志学園との合同練習を行い、充実した合宿となった。9月16日(日)には岡山県高等学校ラグビー選手権大会に一宮・城東・鴨方・朝日・林野との合同チームで参加し、1回戦で創志学園に12―41で敗れた。11月4日(日)には全国高等学校ラグビーフットボール大会岡山県予選会に一宮・城東・鴨方・朝日・林野との合同チームで参加し、津山工業に0―88で敗れた。

《中女子ソフトテニス部》5月、第31回井原市中学生招待ソフトテニス大会で、中3藤井・吉田ペアがベスト32、中島・谷本ペアと片山・岡部ペアは初戦敗退した。

7月、備南西地区総合体育大会(ソフトテニス競技)個人戦では、藤井・吉田ペアがベスト16、中島・谷本ペアがベスト32、片山・岡部ペアと中2松田・藤原ペア、岡田・中3浅田ペアが2回戦敗退で、県大会出場はならなかった。団体戦は、予選敗退に終わった。第24回チャレンジカップ備南西地区中学生ソフトテニス大会では、I部で藤井・吉田ペアがベスト8、松田・藤原ペアがベスト16、岡

田・藤原ペアは2回戦敗退、II部で中1金田・河田ペアが3回戦敗退であった。

8月、第22回ワコースポーツ文化振興財団杯中学校ソフトテニス大会で、松田・藤原ペアが第3位、岡田・河田ペアが2回戦敗退、金田・河田ペアが1回戦敗退であった。

9月、第23回プロシードカップ中学生ソフトテニス大会(団体)に出場、予選リーグで敗退した。

10月、備南西地区秋季体育大会(ソフトテニス競技)個人戦では、松田・藤原ペアがベスト8になり、県大会出場権を獲得した。岡田・河田ペアはベスト32、金田・河田ペアは初戦敗退であった。団体戦は、予選敗退に終わった。

11月、岡山県中学校秋季ソフトテニス大会個人戦で、松田・藤原ペアが出場、初戦で敗退した。第26回チャレンジカップ備南西地区中学生ソフトテニス大会では、I部で松田・藤原ペアがベスト8、岡田・藤原ペアは予選敗退、II部で金田・河田ペアが予選敗退であった。

新チームは部員5名だが、全員がレギュラーとして来年夏の総体での県大会出場を目標に、毎日練習に励んでいる。

《中男子ソフトテニス部》7月12、13日

に笠岡総合公園テニスコートで行われた備南西地区総体では、個人戦に6ペアが出場し、秋本・中村ペアがベスト8で県大会の出場権を獲得。団体戦では予選リーグで新吉中学校に2―1、井原中学校に2―1で勝利し、決勝トーナメントで里庄中学校に1―2で敗退、3位決定戦では大島中学校に1―2で敗退し、ベスト4ではあるが、県大会出場は果たせなかった。7月21日に岡山市浦安総合公園で行われた県総体では、個人戦で秋本・中村ペアが出場し、ファイナルセットの末、初戦敗退であった。7月28日に笠岡総合スポーツ公園で行われたチャレンジカップでは、17ペアが出場し、I部で秋本・中村ペア、綱川・小野晴ペアがベスト8、飯山・西山ペア、加賀山・錦織ペア、大石・藤井ペアが4回戦敗退(ベスト16)であった。8月8、9日に合宿を行い、技術向上を目指した。中3はここで中学引退となった。新チームになって

8月26日に笠岡総合スポーツ公園で行われたワコースポーツ文化振興財団杯では7ペアが出場し、遠藤・小野ペアがベスト4、大石・藤井ペアがベスト8に入った

た。10月13、14日に笠岡総合公園テニスコートで行われた備南西地区秋季総体では、個人戦に6ペアが出場し、山名・中野ペアがベスト4、遠藤・小野ペアがベスト8で県大会出場権を獲得。団体戦では予選リーグで小北中学校に2―0、井原中学校に2―1で勝利し、決勝トーナメントで大島中学校に2―0で敗退した。

11月4、5日に福田運動公園テニスコートで行われた県秋季大会では、個人戦で山名・中野ペア、遠藤・小野ペアが初戦敗退。団体戦では津山西中学校に3―0勝利し、10年ぶりに県大会初戦を突破したが、2回戦で藤田中に0―3で敗れた。

11月17日に井原運動公園で行われたチャレンジカップでは、I部で山名・小野ペア、大石・藤井ペア、川田・磯部ペアがベスト16という結果であった。

《高女子ソフトテニス部》8月18日・20日に福田公園テニスコートで行われた高梁川流域高校ソフトテニス大会《個人・団体》では、個人戦に出場した3ペアは2回戦までに敗退。団体戦は1回戦で倉敷南Bに敗れた。9月22日に笠岡総合ス

ポーツ公園テニスコートで行われた岡山県高校新人大会備西地区予選《個人》に3ペアが出場し、津田・藤井ペアが第3位、萬木・安部ペアが敗者復活戦を勝ち抜いて、県大会出場権を獲得。11月3日に浦安総合公園テニスコートで行われた岡山県高校新人ソフトテニス大会《団体》では、1回戦で大安寺中等教育学校に敗れた。11月10日に福田公園テニスコートで行われた岡山県高校ソフトテニス新人大会《ダブルス》に地区予選を突破した2ペアが出場したが、2回戦までに敗退。

《高男子ソフトテニス部》 9月22日（土）に岡山県新人ソフトテニス選手権大会（ダブルス）の備西地区予選会が笠岡総合公園でおこなわれた。10ペアが出場したが、そのうち岡田・石丸組が第7位、竹内・倉田組が第11位となり、県大会への出場権を獲得した。そして11月3日（土）には県大会（団体戦）が浦安総合公園でおこなわれたが、1回戦で東岡山工業高校に0対3で敗れ、初戦で敗退した。続いて10日（土）11日（日）に水島緑地福田公園でおこなわれた県大会（ダブルス）には地区予選で出場権を獲得した2ペアが出場したが、3回戦までで2

ペアとも敗退した。

《中卓球部》 7月7、8日に備南西地区総体に出場した。男子団体では決勝1次リーグで井原に敗れたが、決勝2次リーグで鴨方、金光に勝ち、準優勝で県大会への出場を決めた。男子個人では北村（L3）が12位で県大会への出場を決めた。島村（L3）が13位、関藤（L3）、瀬良（L3）、高戸（L3）、原田（L3）、東（L3）がベスト32に入った。

7月24、25日に岡山県総体に出場した。男子団体では1回戦で勝北に3―1で勝ち、2回戦で西大寺に0―3で敗れ、ベスト16であった。男子個人では北村が1回戦で敗退した。

9月15日に備西支部シード決め大会に出場した。男子個人では田原（L2）がベスト8、荒島（L2）と中務（L2）がベスト16、浅井（L1）と光田舜（L1）がベスト32に入った。女子個人では大野（L1）がベスト8に入った。

10月13、14日に備南西地区秋季大会に出場した。男子団体では3勝4敗で6位であった。男子個人では荒島、中務、難波（L2）、道廣（L2）がベスト32に入った。女子個人では大野が12位で県大会へ

の出場を決めた。

11月5日に岡山県秋季県大会に出場した。女子個人では大野が1回戦で敗退した。

《高卓球部》 3月21日に笠岡市卓球選手権大会（団体の部）に参加した。男子団体ではやつなみクラブに敗れ、ベスト16であった。

4月15日に笠岡市卓球選手権大会（個人の部）に参加した。男子シングルスで升本（U3）がベスト16に入った。

5月5、6日に全国・中国高等学校卓球選手権大会県予選会に出場した。男子シングルスでは升本がベスト64に入った。男子ダブルスでは升本・山本（U1）組がベスト8に入り、中国大会への出場を決めた。

6月2、3日に岡山県高等学校総合体育大会に出場した。男子団体では2回戦で岡山城東に3―1、3回戦で玉野光南に3―0で勝ち、準々決勝で岡山商大附に1―3で敗れ、順位決定リーグで興陽に1―3、岡山東商に1―3、倉敷青陵に3―2の1勝2敗で8位であった。

6月22日に中国高等学校卓球選手権大会に出場した。男子ダブルスで升本・山本

組が1回戦敗退であった。

8月6日に倉敷市長杯争奪高等学校卓球大会に参加した。男子団体では予選リーグ敗退であった。男子シングルスでは山本がベスト32に入った。

8月27日に岡山県高等学校夏季大会に出場した。高2男子シングルスでは瀬良（U2）がベスト32に入った。高1男子シングルスでは山本がベスト32に入った。

9月16日に全日本卓球選手権大会（ジュニアの部）県予選会に参加した。男子シングルスで瀬良がベスト64に入った。

10月27日に岡山県高等学校秋季大会に出場した。男子団体では予選リーグで高松農に3―0、倉敷商に3―2、玉野に3―0で勝ち、決勝トーナメント1回戦で就実に1―3で敗れてベスト32となった。

《高サッカー部》 高円宮杯U-18サッカーリーグ2018OKAYAMAチャレンジリーグ（前期）の残りの結果は次の通りである。6月23日、対倉敷工業（1―3）、6月24日、対津山（0―5）、7月15日、対水島工業B（1―6）、7月16日、対岡山工業B（1―7）。8月6日、7日には第23回西日本高校サッカー

サマーフェスティバルに参加し、高陽東高校、育英高校、同志社香里高校、平田高校といった普段できない県外チームとの対戦ができ、経験を積むことができた。

岡山県高校サッカー選手権大会一次トーナメントは1回戦シードで、2回戦の対矢掛は（2―0）で勝利し、3回戦の対総社南は（0―6）で敗退した。高円宮杯U-18サッカーリーグ2018OKAYAMAチャレンジリーグ（後期）の途中結果は次の通りである。8月26日、対一宮（0―2）、10月6日、対水島工業B（0―5）。

《中柔道部》 7月12日に里庄武道館で地区大会が行われ、男子団体戦は笠岡東中学校に敗れ、第2位であった。男子個人戦では50kg級で中3坂田迅が、90kg級で中3藤木裕太が第1位になるなど多くの生徒が活躍した。

7月23日、24日に岡山武道館で総体が行われ、男子団体戦は1回戦で灘崎中学校に勝ったが、続く2回戦で勝央中学校に敗れた。男子個人戦では90kg級で中3藤木裕太が第3位になった。その他73kg級で中3趙壮済がベスト8になるなど多くの生徒が活躍した。

8月6日から9日までの3泊4日で、本校柔道場において合宿を行った。多くの保護者の方やOB、他校の先生や生徒が集まっていたが、無事に行うことができた。8日には恒例のB・B・Qを保護者、OBの協力のもと実施できた。大変お世話になり、ありがとうございます。

8月16日から19日にかけて玉野スポーツセンターで行われた強化錬成大会に参加した。

9月15日から16日までの1泊2日、愛媛県武道館で行われた高校強化錬成会に参加した。

9月2日に岡山武道館で金光楯柔道大会が行われ、中3藤木裕太が出場した。

10月8日に岡山武道館で岡山市民体育大会柔道競技が行われ、中3藤木裕太が第3位になった。

《中剣道部》 段級審査会が7月1日（日）倉敷武道館で開催され、浅野優斗（2年）が2段に合格。

備南西地区大会が7月12日（木）金光学園ほつま体育館で開催され、男子団体試合は笠岡東中学校に1（1）対1（2）で負け、男子個人試合は小林芳樹（2年）が3回戦敗退。浅野、田中康介（2

年)の2名がベスト8で県大会出場権を得る。女子は渡邊文奈(3年)が2回戦敗退。新谷莉子(1年)が3位で県大会の出場権を得た。

岡山県剣道段別選手権大会が7月15日(日)・宮本武蔵顕彰武蔵武道館で開催され、初段の部に3名が出場し、浅野、小林が2回戦敗退。田中が3回戦敗退であった。

岡山県中学校総合体育大会剣道競技が7月26日(木)～27日(金)・岡山市総合文化体育館で開催され、男子個人試合で浅野が1回戦、田中が2回戦敗退。女子は新谷が1回戦敗退であった。

備南西地区秋季大会が10月13日(土)・笠岡総合体育館サブアリーナで開催され、男子団体試合は笠岡東中学校に0(0)対2(4)で負け。男子個人試合は小林が3回戦敗退。田中、浅野の2名が4回戦敗退でベスト8。県大会出場権を得る。女子個人試合は新谷が優勝し、県大会出場。

岡山県中学校秋季剣道大会が11月4日(日)～5日(月)・宮本武蔵顕彰武蔵武道館で開催され、男子個人試合で、浅野、田中が1回戦敗退。女子個人試合は新谷

が第3位となり、県の強化指定選手に選出された。

《高剣道部》岡山県高等学校新人剣道大会が11月3日(土)～4日(日)・津山東体育館で開催され、男子個人試合は市川真広(2年)が棄権、新谷理駆(1年)が2回戦敗退。男子団体試合(対高梁城南高校)を棄権した。

《中男子バスケットボール部》7月12日・13日に備南西地区総合体育大会が里庄中学校体育館で行われた。準決勝で笠岡東中と対戦し、75―17で勝利し決勝戦へ進出。決勝戦では、鴨方中学校と対戦し、82―31で勝利し県大会への出場を決めた。

7月23日～25日に行われた岡山県総合体育大会では、1回戦はシード、2回戦は旭東中と対戦し、77―35で勝利した。2日目では、ブロック決勝で玉島北中と対戦し、40―66で敗れ、今大会をベスト8で終えた。

10月12日・13日に備南西地区中学校新人体育大会が天草総合公園体育館で行われた。1回戦はシード、準決勝で笠岡東中と対戦し、40―45で敗れた。

《中女子バスケットボール部》7月12

日・13日に備南西地区総合体育大会が里庄中学校体育館で行われた。1回戦は矢掛中学校に89―21で、準決勝は鴨方中学校に43―30で勝利し、決勝に進んだ。決勝戦では、笠岡東中学校と対戦し、65―47と健闘したが、第2位に終わった。

10月12日・13日に備南西地区中学校新人体育大会が天草総合公園体育館で行われた。1回戦は井原中学校と対戦し、43―21で、準決勝は里庄中学校と対戦し、74―24で勝利し決勝に進んだ。決勝戦では、鴨方中学校と対戦し、49―50で敗れ、健闘むなしく第2位となった。

《高男子バスケットボール部》9月22日に行われた第71回全国高等学校バスケットボール選手権大会岡山県予選備南西地区予選会に参加した。1回戦、倉敷鷺羽高校に延長の末48―46で敗れた。

《中男子バレーボール部》新チームとして9月の支部大会では優勝。10月の地区大会でも優勝。11月の県大会では健闘するもベスト8であった。

《少林寺善法部》8月3～5日に愛知県西尾市において開催された全国高校総体に出場した。男子自由単独演武の部で佐藤謙成(U3)が準決勝に進出、女子団

体演武の部(森藤・米村・塚本・塩谷・難波・能勢・原田)が予選敗退という結果であった。8月18・19日に東京都八王子市において開催された全国中学生大会に出場した。男子単独演武の部で田淵春成(L2)が第11位、塩路雄也(L3)が準決勝進出、友田隼咲(L2)が予選敗退、女子単独演武の部で山田優衣(L3)が準決勝進出、女子組演武の部で史明紗桜里(L3)・難波日奈子(L3)が準決勝に進出した。11月3日に岡山工業高校において開催された第29回高等学校少林寺善法新人大会に出場した。男子自由単独演武の部で坂本莉来(U1)が4位、難波拓也(U1)が5位、女子自由単独演武の部で米村咲南(U2)が3位、女子規定単独演武の部で原田麻未(U1)が1位、高橋南成子(U1)が2位、女子自由組演武の部で塩谷明美(U1)・難波朋楓(U1)が1位、女子団体演武の部で、米村・塚本・塩谷・難波・能勢・高橋・原田が1位となった。原田、高橋、塩谷、難波朋および団体演武のメンバーは3月に香川県善通寺市で行われる全国選抜大会に出場する権利を得た。

《ダンス部》夏休みに、さつきの里デイ

サービスセンター駐車場にて行われた、夏祭りに全学年で参加。ステージ上で元気なダンスを披露し、会場を盛り上げた。また、9月には、ほつま祭にて各学年が自分たちで考えたダンスや、中学校全体、中高合わせて部員全員での息の合ったダンスを見せ、高2は素晴らしいフィナーレを迎えた。また、10月にはイオンモール倉敷のステージイベントの一環として中学の部員全員でダンスを踊った。

《バドミントン同好会》今夏に高校3年生6人が引退し、2学期に新たに部員を迎え、高校1年生、2年生の総勢26人の大所帯で活動している。現在、大会に参加していないが、週に1度の活動を楽しみに、バドミントンを楽しんでいる。

《花道同好会》毎週水曜日に宗教教室で兼信先生の指導の下、熱心に稽古した。《家庭科同好会》ほつま祭で展示を行った。家庭科同好会としての展示参加は数年ぶり。部員たちが熱心に製作に取り組んだ成果として、オリジナルのコスチュームやヘッドドレスを完成させ、展示した。

《かるた同好会》週3回、宗教教室で競技かるたの練習を行った。1カ月に1度

の割合で、岡山県かるた協会長の長原先生に指導をして頂いた。9月23日(日)に早島町コミュニティハウスいぶき荘で行われた第21回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会岡山県代表選考会に高1土橋果歩、川上裕加、藤井みなみの3名が出場した。予選リーグで土橋果歩が1勝したが、決勝トーナメントに進出することはできなかった。11月10日(土)には、倉敷翠松高等学校と合同練習を行って技術の向上を図った。

《歴史同好会》現在部員がいいため活動できていない。  
《その他(水泳競技)》7月14日、15日に倉敷市屋内水泳センターで行われた第56回岡山県中学校総合体育大会水泳競技の部の中3安原隆一が出場した。50m、100m自由形で日頃の練習の成果を發揮し、健闘した。

《その他(相撲)》高2森水慶之が7月15日に行われた国民体育大会岡山県予選会で準優勝し、9月30日から福井県大野市で行われた第73回国民体育大会に岡山県代表選手として出場した。

## 学園だより

### 終業式

高3は7月18日に、その他の学年は28日に、1学期終業式が行われた。式後部活動での県大会上位入賞生徒及び中国大会出場生徒の賞状伝達式と全国大会出場生徒の壮行会も併せて行った。

### 授業・補習

7月19日、26日、中学および高1・高2が特別授業を、高3は補習を実施した。また、高3は8月23日、31日まで後期の補習を実施した。

### 個別面談

中高の全クラスで行われた。一学期を振り返り、夏休みの過ごし方や進路選択等について個別に懇談を実施した。

### サマーチャレンジ

8月10日、12日、高1特別進学クラス全員と総合進学クラスの希望者を対象にサマーチャレンジを実施した。2泊3日で集中して英国数の発展的な学習に取り組んだほか、自主学習と小テストにより基礎的内容を定着させた。

### 教職員夏季研修

8月20・21日、全教職員が参加して32回目の夏季研修が行われた。初日は午前に分科会で金光学園の

アピールの内容と効果的な方法について議論を行った。午後には灘高等学校・灘中学校教諭、オフィスユメキと 木村達哉氏による『授業改革から学校改革へ』実績をあげるためにやるべきこと』と題した講演を聴いた。2日目は講演の内容を基に教科会議を実施し、全体会の中で分科会・教科会議で議論された内容を共有した。実り多き研修会となった。

### 始業式

中学、高1・2は8月23日に、高3は9月1日に2学期の始業式が行われた。校長式辞の後、生活課からの諸注意、生徒会課から夏休み中の部活動及び生徒活動の表彰があった。

### 課題テスト

中学は8月24日に、高1・2は8月23日、25日に、高3は9月1日にそれぞれ実施した。

### 留学生来校

「アジア高校生架け橋プロジェクト」によるモンゴルからの留学生ニヤムバヤル・ブヤンバトくんを高校に受け入れた。

### オーブンスクール

8月26日、台風のために延期となっていた第20回目の一日入学が行われ、小学生や中学生および保護者を合わせて1063名の参加があった。授業体験や部活動体験を通して、金

光学園での生活の一部を楽しく体験した。また、9月8・9日、P A R T 2のほつま祭でも多くの小学生が参加した。10月2日、P A R T 3の中学体育会は平日開催のために中止になった。

### 教育実習

9月1日から14日あるいは21日までの期間、卒業生10名が2週間または3週間の実習を行った。

### 街頭交通指導

9月1日から6日まで教員が通学路に立ち、交通安全・交通マナーについての指導を行った。また、21日から30日まで「秋の交通安全市民運動」に合わせて指導を行った。

### 金光学園杯小学生招待バレーボール大会

9月2日、第16回のバレーボール大会がほつま体育館で行われた。20チーム（選手約200名）の参加があり、レベルの高い熱戦が繰り広げられた。

### 姉妹校交流

9月4日、9日、韓国春川女子高校の生徒15名を受け入れた。生徒宅にホームステイをしつつ、授業や部活動の交流、広島倉敷への研修を行った。

### ほつま祭

9月8日・9日、「アオハル青春をかけぬけろ」をテーマに創立124年目のほつま祭が開催された。オーブンスクール（両日開催）や友愛セール（日

曜日）も多くの参加者で賑わいを見せた。

### 高校体育会

9月11日、爽やかな青空の下、高校体育会が華やかに行われた。

### 進路委員会

9月11日、高3の教員が中心となって、指定校推薦の校内選考を行い、大学への推薦者を決定した。

### 霊地親睦の集い

9月17日、霊地各機関対抗の球技大会（バレーボール・ソフトボール）行われ、学園教職員が参加した。親睦を深めることができた。

### 進路講演

高2は9月21日、香川大学の山崎裕正先生による進路講演『未来』を知って、「進路」を考える。自分を成長させる大学への道を知る。高1は10月5日に代々木ゼミナールの山根正義氏による講演『現役合格の鉄則―新テスト攻略の礎―』をそれぞれ聴いた。

### 高校進学懇談会

9月26日、公立中学校の先生方を対象に平成31年度高校入試の説明等を行った。

### 塾対象入試説明会

9月27日、朝2時は全学年全クラスを授業公開し、その後の全体会では平成31年度の中学・高校入試などについて説明を行った。

### 教祖生誕前夜奉祝行事

9月28日、例年のように金光駅から本部境内まで教祖

の生誕を祝う提灯行列が行われた。学園教職員も参加し、学園御興を担ぎ行列を盛り上げた。

### 中学体育会

10月2日、前日の荒天の影響を受け、準備のために1時間遅れの開催となった。晴天に恵まれ、華やかな踊りやマスケットが兄弟学級の団結力を示した応援合戦に彩りを添えた。

### 高2大祭奉仕

10月2日6・7限に金光教本部で清掃奉仕を行った。

### 探究Ⅱ課題研究校内発表会

10月3日に理系が数学、物理、化学、生物、天文の5つのゼミで、4日に文系が人文、教育、グローバルの3つのゼミで研究した成果についてポスター発表を行った。

### 遥照登山

10月4日に予定されていた中1の遥照山登山は、荒天により11日に延期になった。しかし、当日も雨であったため、ドッジボールを行い、親睦を深めた。また、11月20日にはG Tの時間で丸山公園に出掛け、深まり行く秋の中、楽しいひとときを過ごした。

### 京都アメリカ大学コンソーシアムの来校

10月5日、浅口市国際交流協会が主催する京都アメリカ大学コンソーシアムの留学生が来校する予定であったが、台風の

影響で中止になった。

### 進路学習

10月5日、中3は高校教務課長の話を聴き、高校生活と進路選択について考えた。また、11月13日、高校からの学習活動に備えて進路適性検査を実施した。10月12日、中2は進路課長の話を聴き、将来の仕事を見据えた中学生時代の過ごし方について考えた。

### 高3大祭参拝

10月10日、心の教育の一環として、高3生徒全員が金光教本部での生神金光大神大祭に参拝した。

### 金光学園杯小学生卓球大会

10月8日、第18回の卓球大会が小体育館で開催された。男女18チーム（14名）の参加があり、シングルスで男女別に優勝杯を競い合った。

### 性教育

7月12日、公設国際貢献大学校専任講師の内尾京子先生を招き、高2を対象に「責任ある性」をテーマに性教育を行う予定であったが、西日本豪雨災害による休校のため中止になった。中1は10月26日にDVD「正しく知る！二次性徴Q&A」を見て、アンケートに答え、感想文を書いた。11月9日に男女の身体の相違を理解し、お互いに尊重することを学んだ。

**教育相談保護者会** 10月13日、安原こずえ先生を講師に、1名の保護者と教育相談員とで交流会が行われた。

**心の教育** 10月19日に中1は金光道晴校長から中山亀太郎先生についての話を聴き、創立記念式を前にして金光学園の精神を学んだ。

**中学・高校入試模擬テスト** 10月20日、来春の中学校入試を受験する小学校6年生を対象に、11月3日、来春の高等学校入試を受験する中学3年生と学園の中学3年生（希望者）を対象に模擬テストを行い、多くの受験生が本番さながらに挑戦した。また高校の推薦入試受験希望者には面接を行った。その後、入試説明が行われ、それぞれに平成31年度入試についての説明を行った。

**ジエネシス2018中国高校生日中植林・植樹国際連帯事業** 10月19日、中国から30名の高校生が来校した。英語、漢文の授業を受け、中3各クラスと交流会を行った。放課後は記念植樹、部活動体験を行い、送別会に参加した後、帰国した。**読書会** 高1は11月9日に、高2は10月26日に、中3は11月20日に、中2は11月13日に、中1は11月27日にそれぞれ学

年で希望の本を選び、各グループに分かれて、意見交換をした。

**人権教育** 中2は10月30日にビデオ「ひめゆりの塔」を見て感想文を書いた。中

3は10月13日にEテレ「ハートネットTV」を見て感想文を書いた。また、11月9日に各クラスで感想文をもとに話し合いを行った。高1は9月28日、10月2日にビデオ「ハンセン病 今を生きる」を見て、感想文を書いた。高2は11月30日、名古屋女子大学三宅元子先生から「ネット社会を上手に生き抜くために」人権侵害・トラブル防止・対処法について考える」という演題で講演をいただき、感想文を書いた。

**教科担当者会議** 中1から中3まで、日頃の授業の様子や中間考査の結果についての情報が交換され、個々のすぐれた点や改めたい点が指摘検討された。

**ロードレース** 11月13日、中学校全体のロードレース大会が行われた。男子は4キロ、女子は2キロのコースをそれぞれ力走した。

**EUがあなたの学校にやってくる** 11月15日の4限目、ドイツ総領事館よりヴェルナー・ケーラー総領事が来校され、高

1特別進学クラス、高2全クラスを対象に大講義室にて講演を行った。昼休みには、国際交流クラブと希望者が総領事を囲む会を行った。

**創立124年記念式** 11月16日、創立124年の記念式がほつま体育館で厳かに挙行された。生徒代表 上川滉太くんの所願表明は、大変すばらしく後輩にとっても大変な元気を与えてもらった。式典後、齋藤泰雄氏の記念講演が行われた。「オリンピックと外交から見た日本」後輩たちに伝えたい日本の魅力」という演題の講演は、平昌冬季五輪に出場した選手達の活躍の模様を通して、グローバル社会における日本の魅力を改めて知る機会になった。今後の生活に大きな示唆を与えていただいた。

**お祝い** 金光道晴校長先生には教育者文部科学大臣表彰を受賞され、お慶び申し上げます。小野泉先生には岡山県私学教育功労者表彰を受賞され、お慶び申し上げます。友田勝己先生には9月23日に次男のご誕生、お慶び申し上げます。

**お悔やみ** 浅野隆弘さん（中3保護者）には7月28日に逝去、高田秀彦さん（中3保護者）には8月1日に逝去、浅野朋希さん（中1保護者）には8月26日に逝去、原田康史先生の御尊父には9月11日に逝去、山下真儀先生の御尊父には10月29日に逝去、山田宗則先生の御母堂には11月21日に逝去、謹んでお悔やみ申し上げます。

## 表紙の言葉

佐藤 有紀

私は「オリオンの 真下春立つ 雪の宿」という俳句を絵にしようと思った時どうやったら「真下春立つ」を表現できるだろうと思いました。そうすると立春という言葉が頭に浮かびました。この絵では立春を表現するために同じ頃に見えるオリオン座を描いたり、自分が想像する春の色を使ったりしました。少女は自分が泊まっている雪の宿の外に出てオリオン座を見たとき、もうすぐ春が近づいてくると感じていると思います。

私はこの版画をみて、寒い冬が終わり、もうすぐ春がくることを感じてもらいたいと思います。皆様にとって素晴らしい新年になることをお祈り申し上げます。

## 7月に発生した西日本豪雨災害において被災された方々に、謹んでお見舞い申し上げます。

金光学園では7月31日・8月1日に生徒・教職員有志がバスで倉敷市真備町を訪れ、支援活動を行ったほか、それぞれの立場や繋がりにおいて様々な支援活動を行いました。また、生徒会・教職員・保護者会・同窓会で募金活動を行い、被災された本校生徒のご家庭に義援金としてお渡ししました。被災地の1日も早い復旧・復興を心からお祈り申し上げます。



# 高2修学旅行

## 北海道コース



## オーストラリアコース



## シンガポール・マレーシアコース



# 教室の窓から

森谷 英子

今年の夏に写した一枚のクラス写真を見る  
と思わず顔がほころんでしまう。「先生、この  
ポーズをみんなでしようよ。みんな大好きと  
いう意味だから。違う、違う。そうじゃないよ。  
こうするんだよ」と一人の男子生徒が私の手  
をとって教えてくれる。そんな姿を見て吹き  
出したり、手をたたいたりして生徒たちは実  
に楽しそうに笑っている。ひとりひとりが輝  
いている一枚である。私は、毎日こんな温か  
さに包まれて幸せな教師生活を送ってきた。  
穏やかな環境の中で高校生活を謳歌している  
生徒たちもやがて社会へ出て、さまざまな経  
験をするだろう。時には辛く、厳しいことも  
あるだろう。そんな時に彼らに見てもらいた  
い木彫りがある。

鬼は人間を食ったけれど生ぬるくてどうにも  
ならないやつだったので、気持ち悪くなって  
吐き出してしまった。この瞬間をとらえたのが  
「転生」だそう。いいかげんに生きる人間へ  
の戒めであり、田中先生自身の生き方への問  
いかけがこの作品には含まれているのかもしれない。  
日本近代彫刻界の巨匠であり、世界的な芸術家となつた平橋田中先生。100歳を超  
えてもなお、心の耳を澄まして木彫一筋に精  
魂込めてのみを打ち続けた田中先生の姿が目  
途半端ではなくひとつのことを極めた先生の  
行き方は私の憧れである。

私は何度この像の前に立つたことだろう。  
さまざま鬼の顔は、悩み、意欲を失った私  
をあざけるように迫ってくる。この鬼の口か  
ら吹き出されている人間はまさしく生ぬるい  
自分自身だ。しばらくならみ合いが続き、や  
がて迫りくる鬼に瞬きもせず立ち向かつてい  
る私がいる。人は死に、また生まれ変わる。  
こんなことでいつまでもよくよくなることは  
ない。こんな鬼に負けてなるものかと新しい  
意欲がわいてくるのだ。だから生徒たちにも  
この作品を見て、生きるとは何かを自分自身  
へ問いかけるきっかけにしてもいい。田  
中先生の気迫、信念を感じながら彼らが打ち  
込めるものを求め、それを極めていこうと決  
意してくれることを期待する。

# 編集後記

今年の新語・流行語大賞にノミネートされた言葉に、ワールドカップロシア大会で話題になった「大迫」半端ないって」がある。元々は10年前の発言だといふから面白い。

「半端ない」という表現を耳にするようになったのはいつ頃だろうか。「中途半端だ」という形容動詞を打ち消して「半端ではない。半端じゃない」と言われていたものが、いつの間にか省略されて一語の形容詞になってしまった。いつの時代も略語や新語は若者を中心に広まるものであるが、まさか品詞まで変わってしまうとは。初めて「半端ない」を聞いたときの衝撃を懐かしく思い出す。そもそも、日本人は言葉を省略することを好む。次々に生み出される略語や新語の中には限られた仲間内での符丁にとどまるものもあれば、どんどん広がり、一般化するものもある。

最近、耳に障るのが「だじよばない」だ。「半端ない」と同じく、「大丈夫ではない」が形容詞に変化したものであるが、音の変化が強引だし、一語としてはやや長めで言いづらい。きっと、定着せずに消えていくことになるのではないだろうか。

平成30年12月17日印刷

12月21日発行

編集者

金光学園やつなみ保護者会

印刷所

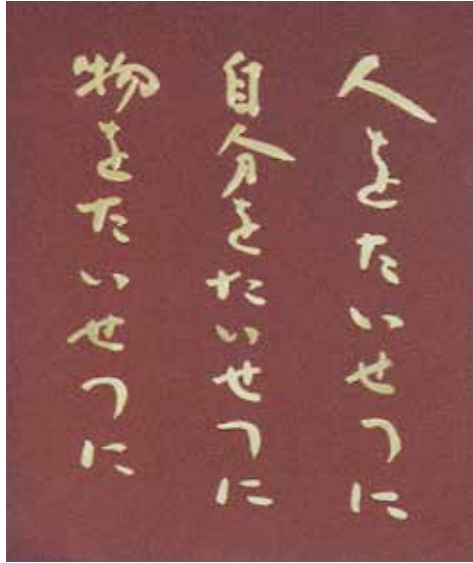
倉敷市船穂町船穂二〇九五―一  
やつなみ編集部  
玉島活版所

発行所

浅口市金光町占見新田一三五〇

金光学園内

金光学園やつなみ保護者会



◎ほつま = 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。

「日本という国」の古異名の一つ。

創立後、生徒会や冊子の名に使用。

ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

.....  
◎やつなみ = 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。

金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。

P T A機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。

人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに

<http://www.konkougakuen.net>

E-mail [info@konkougakuen.net](mailto:info@konkougakuen.net)